



第2期紀宝町 まち・ひと・しごと創生 総合戦略

令和4年度 ▶ 令和8年度

令和4年3月



目 次

はじめに	1
第 1 章 紀宝町人口ビジョン	2
1. 人口問題における紀宝町の現状と将来人口推計による分析	2
(1) 紀宝町の人口推移と将来人口	2
(2) 国より提供された紀宝町の人口推計シミュレーション	12
(3) 紀宝町の産業及び就業状況	15
2. 長期人口ビジョンとその考え方	17
(1) 合計特殊出生率の推移と人口推移	17
(2) 未婚率の県内比	18
(3) 住民アンケート調査結果 一般・高校生世代	19
(4) 中学生アンケート調査結果	23
3. 紀宝町人口ビジョン策定に向けた人口推計シミュレーション	29
【シミュレーション (2020 年出生率 1.8+ 社会増減 2035 年までに ±0)】	29
【試算結果】	29
第 2 章 紀宝町まち・ひと・しごと創生総合戦略	32
1. 第 1 期総合戦略の成果と課題	32
(1) 数値目標及び重要業績評価指標 (KPI) の達成状況	32
(2) 第 1 期総合戦略の実施状況と課題	35
(3) 第 1 期中に生じた世界的な潮流	38
2. 第 2 期総合戦略の概要	40
(1) 基本的な考え方と位置付け	40
(2) 計画期間	40
(3) 戦略推進の 5 原則	40
(4) 推進・検証のしくみ	40
3. 基本目標	41
(1) 基本目標の考え方	41
(2) 基本目標	41
4. 目標別の実施策	42
(1) 総合戦略の全体骨子	42
(2) 基本目標別の具体的施策	43
基本目標 1：安心して子どもを産み、育てられる「紀宝」	43
基本目標 2：だれもが働きやすい「紀宝」	47
基本目標 3：だれもが暮らしやすい「紀宝」	50
基本目標 4：交流で賑わいあふれる「紀宝」	53

はじめに

わが国は、平成 20 年をピークとして人口減少局面に入っており、急速に進む人口減少と少子高齢化に歯止めをかけるため、国は平成 26 年 9 月にまち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）を制定し、同年 12 月には、2060 年に国の人口を 1 億人程度維持する等の中長期的な展望を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と、それを実現するための取組の方向性をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。現在は令和元年 12 月に策定された「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき取組を進めています。

紀宝町においても、国のこうした枠組や、まち・ひと・しごと創生法の趣旨を踏まえ、人口減少に歯止めをかけるため、「紀宝町人口ビジョン」およびそれを実現するための 5 か年の目標や施策を示した「紀宝町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成 28 年 3 月に策定しました。「紀宝町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、『安心して子どもを産み、育てられる「紀宝」』、『だれもが働きやすい「紀宝」』、『だれもが暮らしやすい「紀宝」』、『交流で賑わいあふれる「紀宝」』の 4 つの基本目標に基づき、子育て支援や移住促進などの取組を進めてきました。また、上位計画である総合計画と計画期間をあわせるため、計画期間を延長しました。

第 1 期の総合戦略が終期に迎えるにあたり、人口等の現状を踏まえた「第 2 期紀宝町人口ビジョン」、第 1 期の課題の再整理を行いながら、令和 4 年度からの 5 年間を計画期間とした「第 2 期紀宝町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することで、引き続き切れ目なく、地方創生の実現に向けた取組を展開していきます。



第1章 紀宝町人口ビジョン

1 人口問題における紀宝町の現状と将来人口推計による分析

(1) 紀宝町の人口推移と将来人口

本町の人口は、1980年以降をみると、1995年をピークに減少しており、2045年には1980年と比較して54.2%の約6,600人にまで減少すると推計されています。

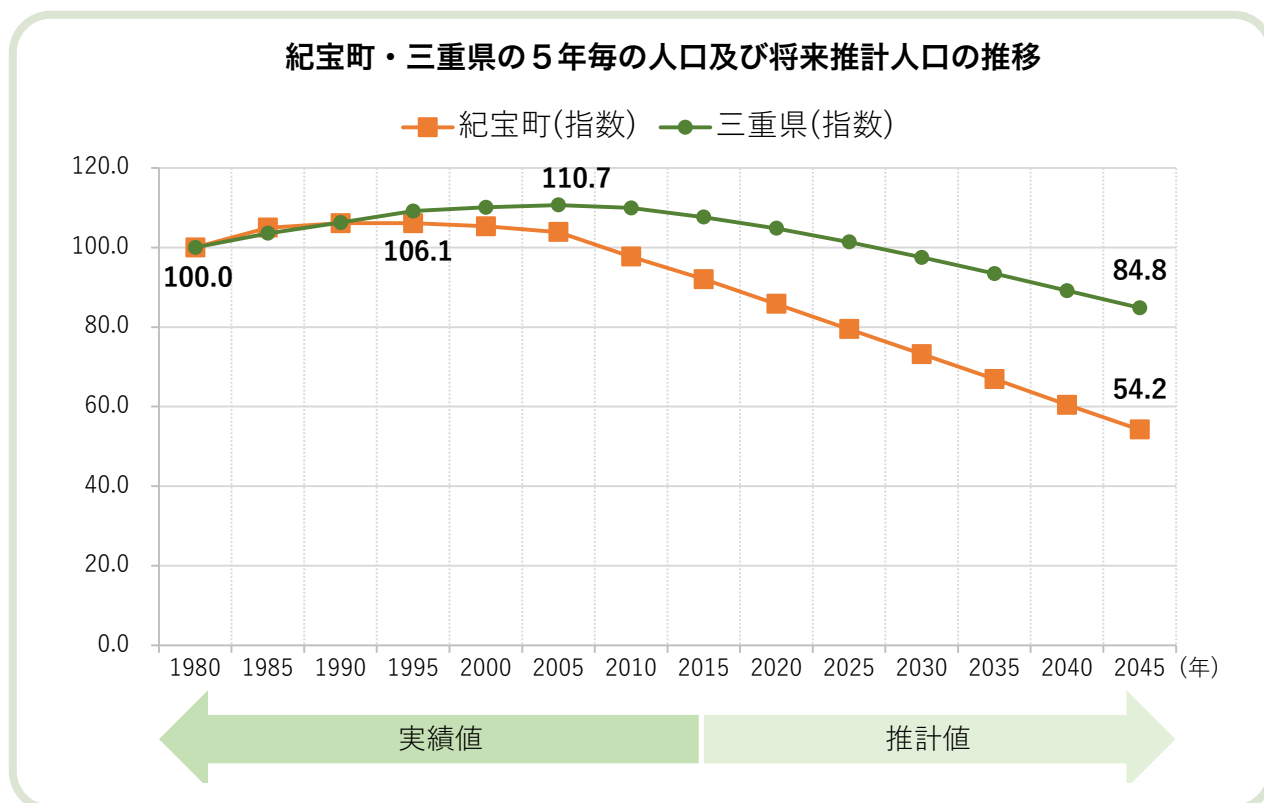
また、1980年には2割を占めていた年少人口は、2015年から2045年にかけて55.4%減少して1割弱になり、生産年齢人口も53.8%減少して4割程度になると推計されています。一方、増加の一途をたどっていた老年人口は、2020年頃をピークに減少に転じる見込みとなっており、2015年から2045年にかけて15.3%減少して4割強になると推計されています。

《紀宝町・三重県の5年毎の人口及び将来設計の推移》

	紀宝町(総人口)	紀宝町(指数)	三重県(総人口)	三重県(指数)
1980	12,177	100.0	1,686,936	100.0
1985	12,783	105.0	1,747,311	103.6
1990	12,919	106.1	1,792,514	106.3
1995	12,921	106.1	1,841,358	109.2
2000	12,824	105.3	1,857,339	110.1
2005	12,648	103.9	1,866,963	110.7
2010	11,896	97.7	1,854,724	109.9
2015	11,207	92.0	1,815,865	107.6
2020	10,450	85.8	1,768,098	104.8
2025	9,677	79.5	1,709,820	101.4
2030	8,912	73.2	1,645,050	97.5
2035	8,150	66.9	1,575,867	93.4
2040	7,359	60.4	1,503,635	89.1
2045	6,602	54.2	1,430,804	84.8

【出典】総務省「国勢調査」、2020年以降は、「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

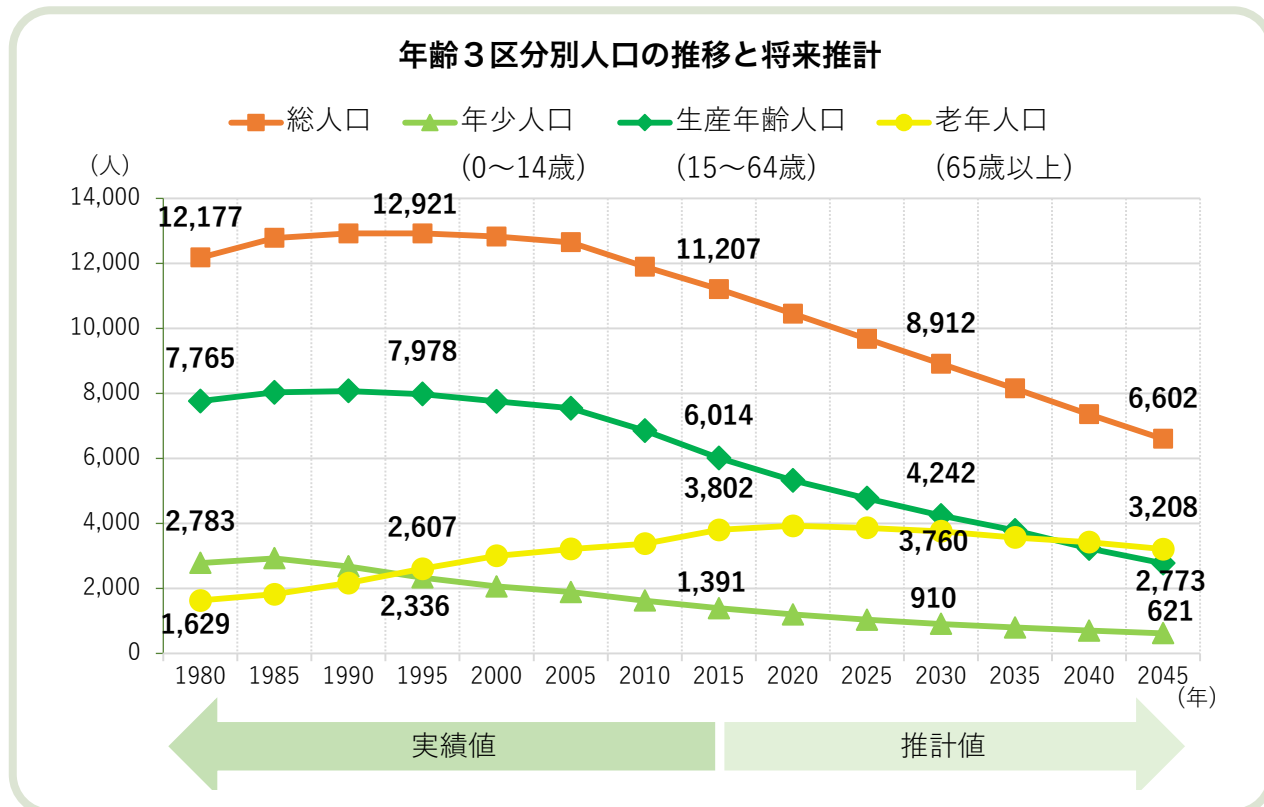
≪紀宝町・三重県の5年毎の人口及び将来推計（1980年＝100）≫



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

≪年齢3区別人口の推移と将来推計≫

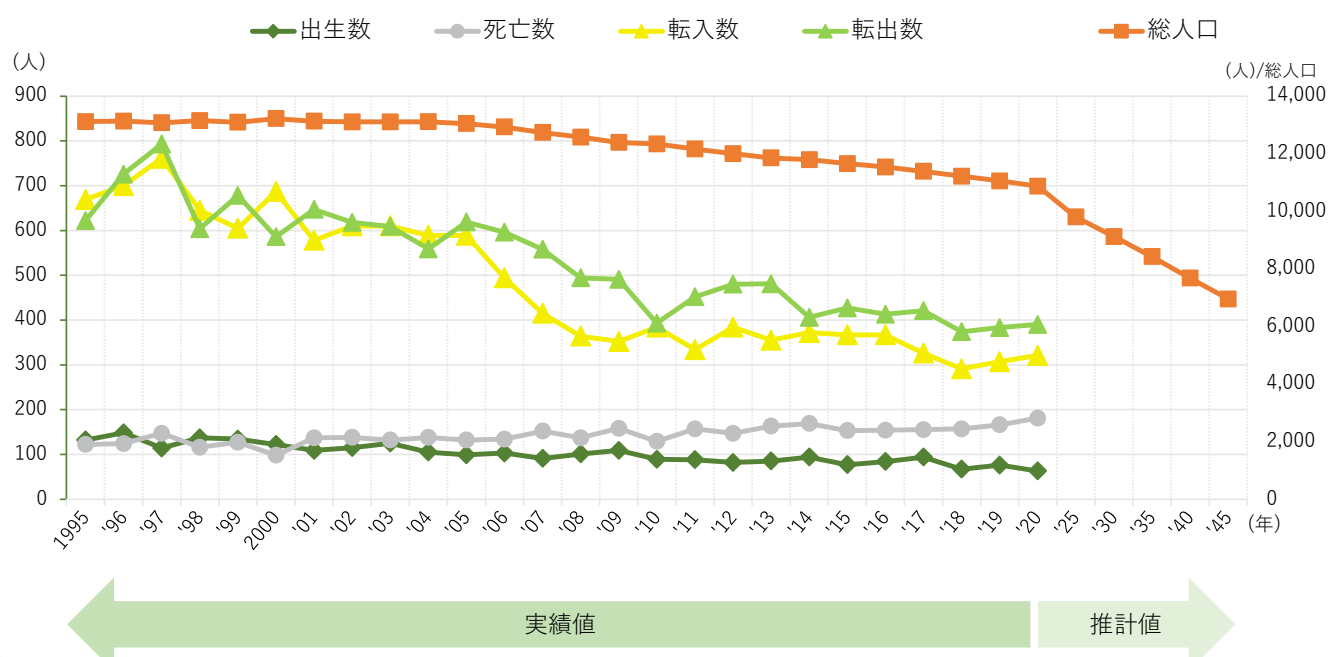


【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

《出生数・死亡数／転入数・転出数》

出生数・死亡数、転入数・転出数の推移と総人口の推移・将来推計



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

【注記】2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

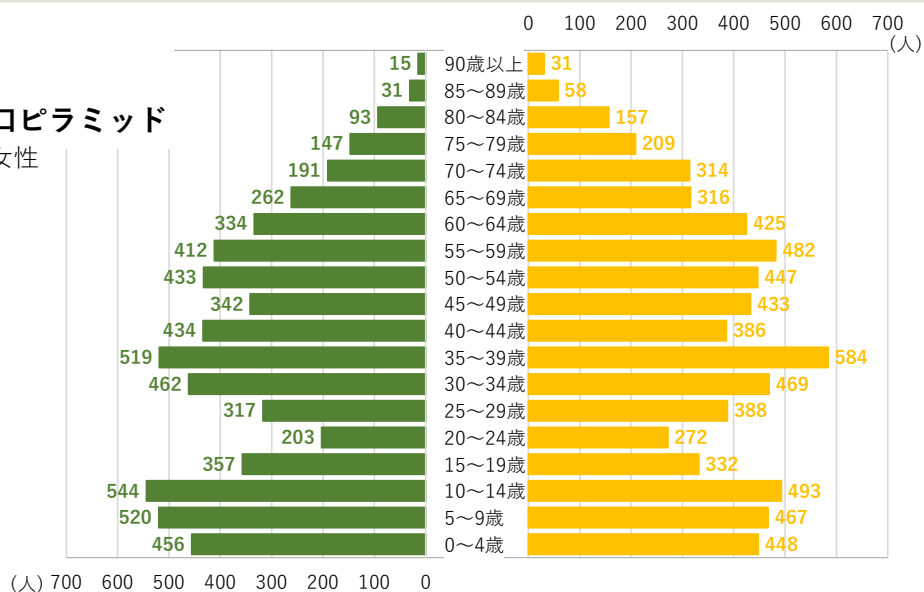


「年齢階層別（5歳階級別）人口の変化」

紀宝町

1985年人口ピラミッド

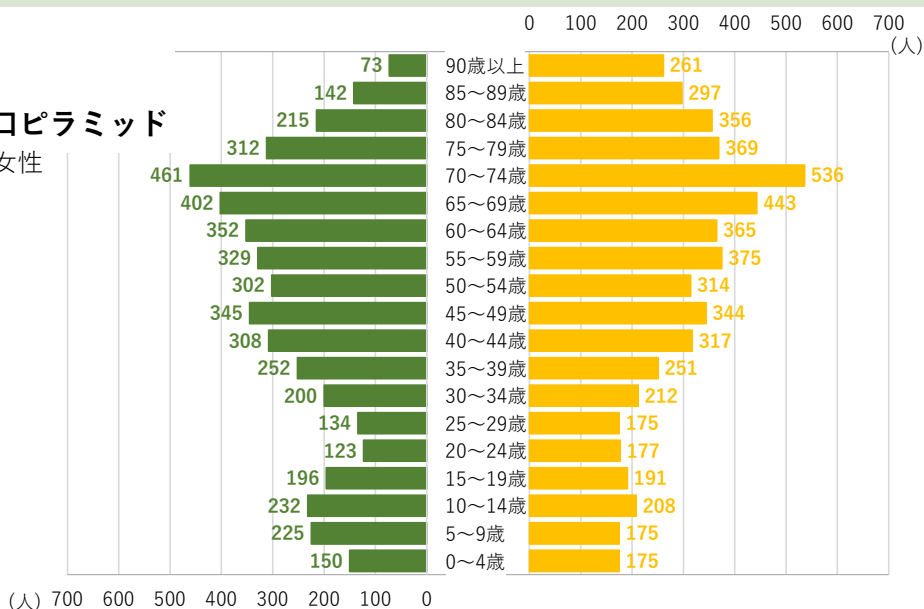
■ 男性 ■ 女性



紀宝町

2020年人口ピラミッド

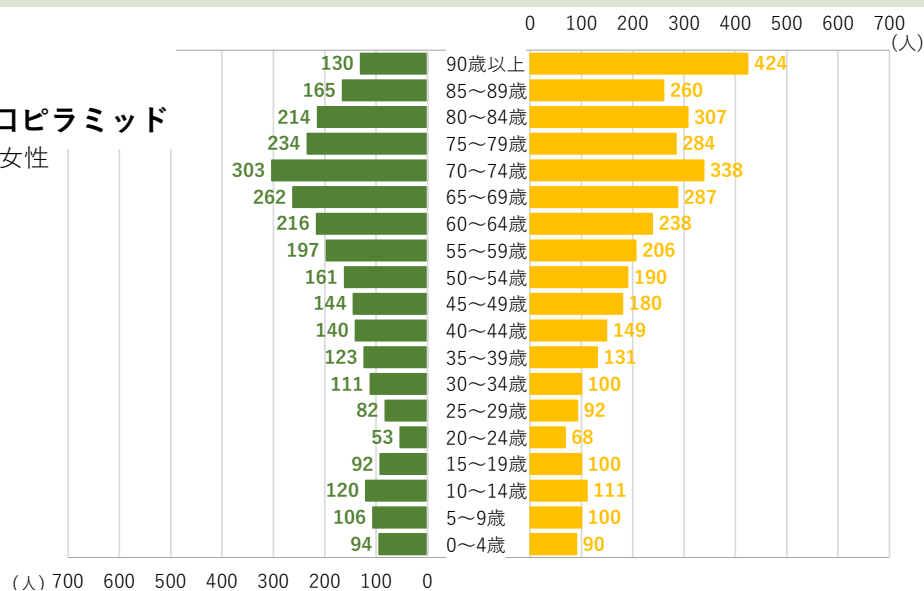
■ 男性 ■ 女性



紀宝町

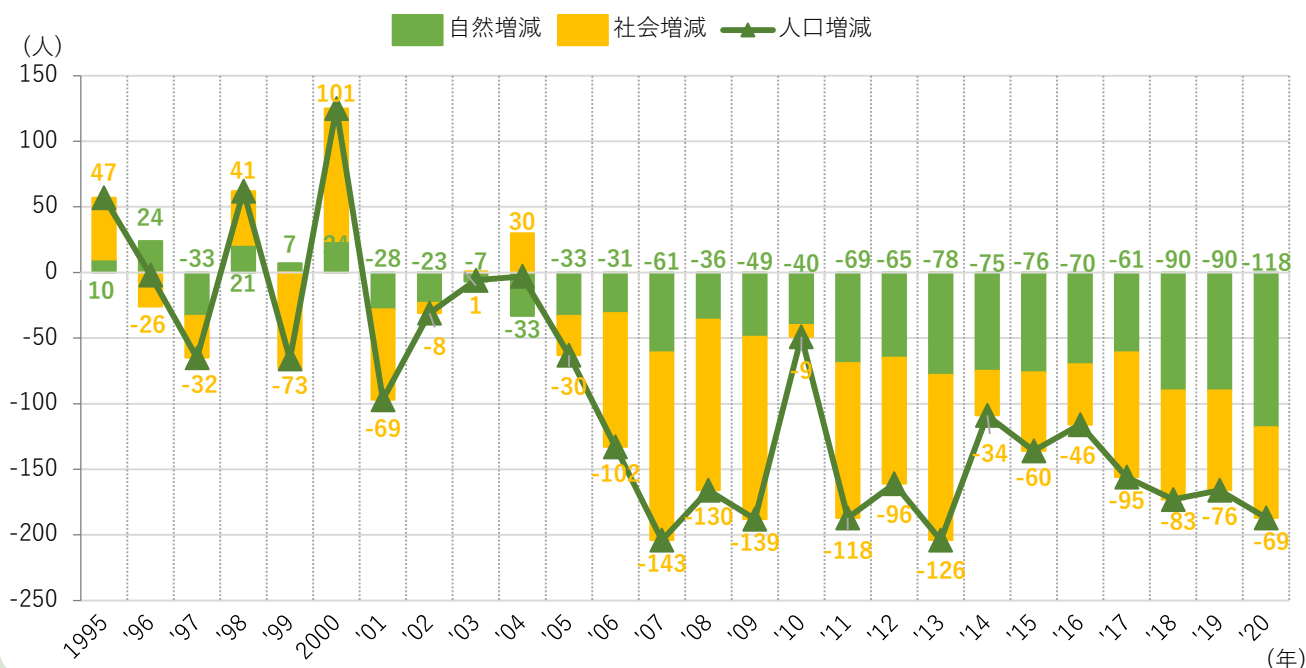
2045年人口ピラミッド

■ 男性 ■ 女性



《自然増減（注１）・社会増減（注２）の推移》

自然増減・社会増減の推移



【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

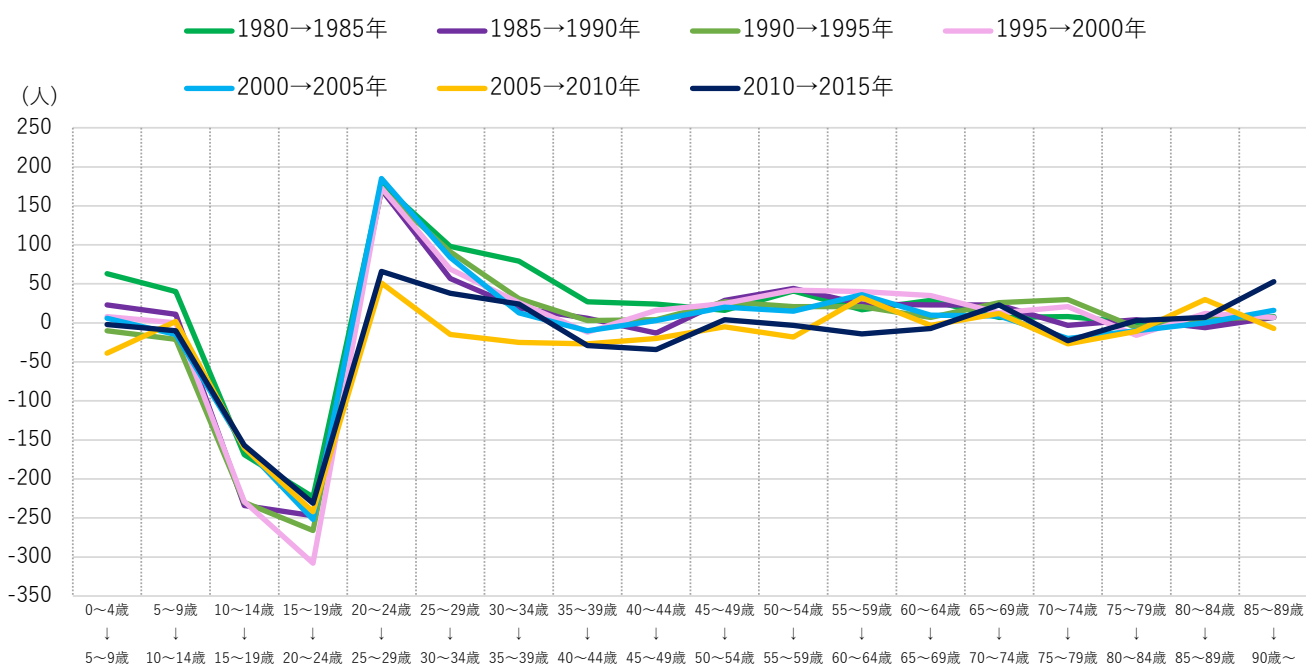
【注記】2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

（注１）自然増減とは、出生と死亡による増減。

（注２）社会増減とは、移住や引っ越しに伴う転入と転出による増減。

＜年齢階級別純移動数＞

紀宝町 年齢階級別純移動数(総数)



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

《 5 歳階級別転入数、転出数推移（5 年間） 》

(人)

性別	年齢区分	1980 年 →1985 年	1985 年 →1990 年	1990 年 →1995 年	1995 年 →2000 年	2000 年 →2005 年	2005 年 →2010 年	2010 年 →2015 年
総数	0～4 歳→5～9 歳	63	23	-10	8	6	-39	-2
	5～9 歳→10～14 歳	40	11	-21	0	-15	2	-10
	10～14 歳→15～19 歳	-169	-234	-230	-229	-159	-160	-157
	15～19 歳→20～24 歳	-223	-247	-266	-308	-252	-242	-231
	20～24 歳→25～29 歳	178	171	171	173	185	51	66
	25～29 歳→30～34 歳	98	57	91	69	84	-15	38
	30～34 歳→35～39 歳	79	19	31	26	13	-25	24
	35～39 歳→40～44 歳	27	6	3	-12	-10	-27	-29
	40～44 歳→45～49 歳	24	-13	4	16	3	-20	-34
	45～49 歳→50～54 歳	16	29	27	25	20	-5	4
	50～54 歳→55～59 歳	41	44	21	42	15	-18	-3
	55～59 歳→60～64 歳	17	24	21	40	36	32	-14
	60～64 歳→65～69 歳	29	23	7	35	10	-3	-7
	65～69 歳→70～74 歳	7	23	26	13	9	12	23
	70～74 歳→75～79 歳	8	-3	30	21	-20	-27	-23
	75～79 歳→80～84 歳	0	4	-6	-16	-10	-11	3
	80～84 歳→85～89 歳	1	-6	6	12	0	30	7
	85～89 歳→90 歳～	8	7	7	7	16	-7	53
	合計	244	-62	-88	-78	-69	-472	-292



(人)

性別	年齢区分	1980年 →1985年	1985年 →1990年	1990年 →1995年	1995年 →2000年	2000年 →2005年	2005年 →2010年	2010年 →2015年
男	0～4歳→5～9歳	35	27	7	-6	-11	-27	9
	5～9歳→10～14歳	30	8	-22	-4	-7	4	-4
	10～14歳→15～19歳	-82	-123	-129	-109	-82	-88	-96
	15～19歳→20～24歳	-158	-137	-162	-183	-157	-163	-121
	20～24歳→25～29歳	102	68	81	84	93	33	44
	25～29歳→30～34歳	55	42	72	35	56	0	24
	30～34歳→35～39歳	42	20	21	3	4	-23	13
	35～39歳→40～44歳	20	9	10	-7	-1	-9	-8
	40～44歳→45～49歳	-1	-24	11	2	12	-1	-23
	45～49歳→50～54歳	5	13	9	6	5	11	4
	50～54歳→55～59歳	12	22	9	24	8	-15	-2
	55～59歳→60～64歳	2	11	15	29	15	23	-11
	60～64歳→65～69歳	19	8	6	11	3	12	-4
	65～69歳→70～74歳	-5	7	9	10	9	14	16
	70～74歳→75～79歳	3	9	22	12	-4	-20	-12
	75～79歳→80～84歳	-3	-1	3	-4	-5	-9	0
	80～84歳→85～89歳	0	0	-2	3	-2	1	-2
	85～89歳→90歳～	5	-1	2	2	-3	-1	10
	合計	81	-42	-38	-92	-67	-258	-163

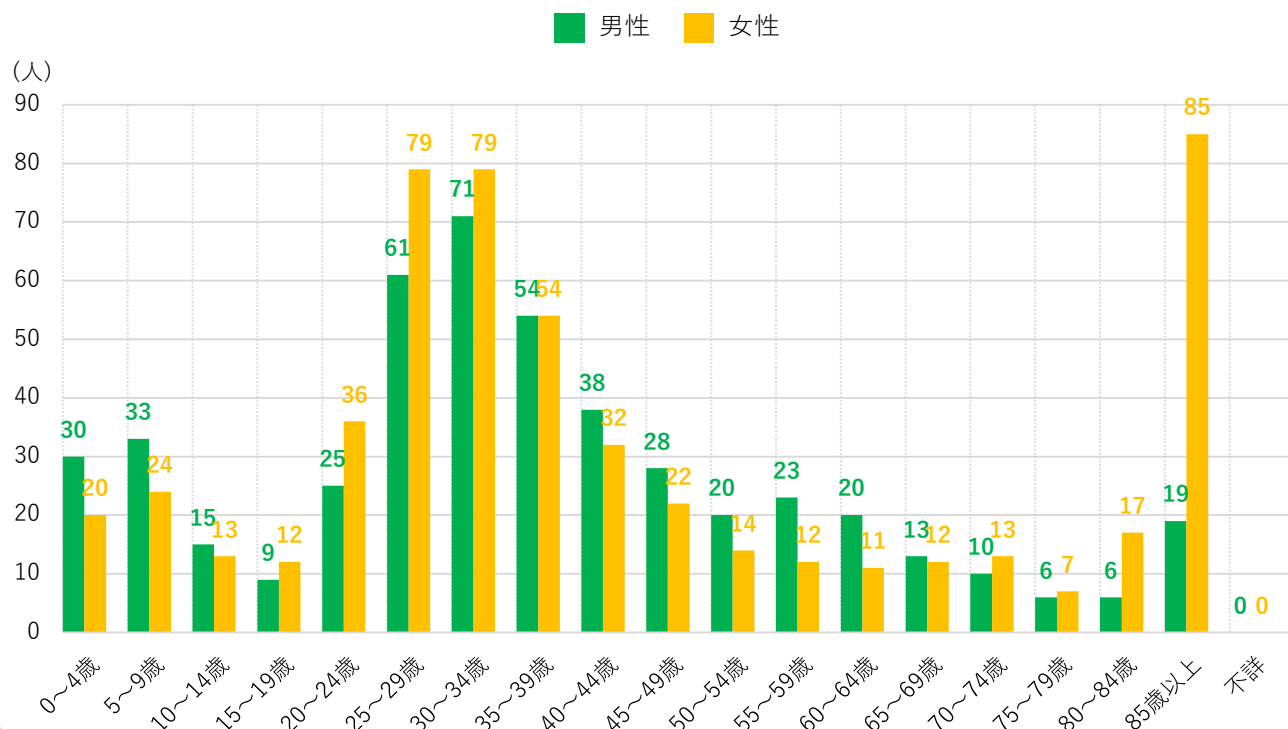
(人)

性別	年齢区分	1980年 →1985年	1985年 →1990年	1990年 →1995年	1995年 →2000年	2000年 →2005年	2005年 →2010年	2010年 →2015年
女	0～4歳→5～9歳	28	-4	-17	14	17	-12	-11
	5～9歳→10～14歳	10	3	1	4	-8	-2	-6
	10～14歳→15～19歳	-87	-111	-101	-120	-77	-72	-61
	15～19歳→20～24歳	-65	-110	-104	-125	-95	-79	-110
	20～24歳→25～29歳	76	103	90	89	92	18	22
	25～29歳→30～34歳	43	15	19	34	28	-15	14
	30～34歳→35～39歳	37	-1	10	23	9	-2	11
	35～39歳→40～44歳	7	-3	-7	-5	-9	-18	-21
	40～44歳→45～49歳	25	11	-7	14	-9	-19	-11
	45～49歳→50～54歳	11	16	18	19	15	-16	0
	50～54歳→55～59歳	29	22	12	18	7	-3	-1
	55～59歳→60～64歳	15	13	6	11	21	9	-3
	60～64歳→65～69歳	10	15	1	24	7	-15	-3
	65～69歳→70～74歳	12	16	17	3	0	-2	7
	70～74歳→75～79歳	5	-12	8	9	-16	-7	-11
	75～79歳→80～84歳	3	5	-9	-12	-5	-2	3
	80～84歳→85～89歳	1	-6	8	9	2	29	9
	85～89歳→90歳～	3	8	5	5	19	-6	43
	合計	163	-20	-50	14	-2	-214	-129

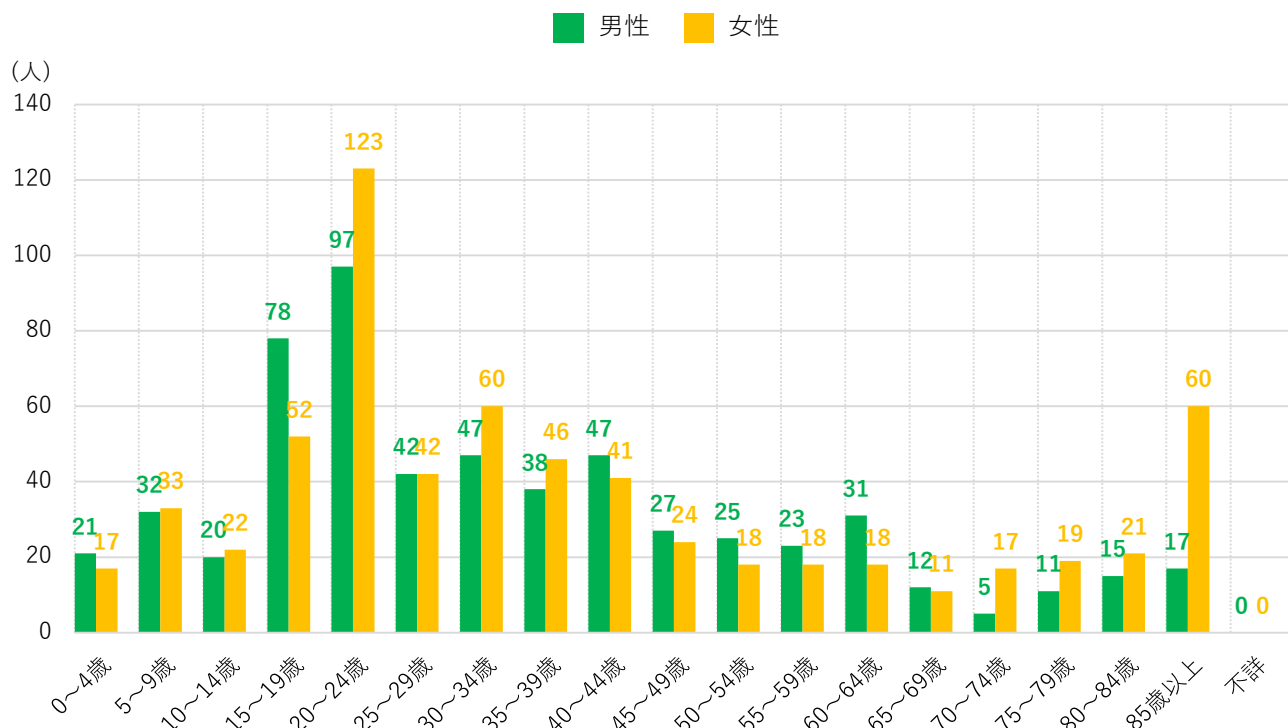
※地域経済分析システム (RESAS)

≪ 5 歳階級別 2010 年→2015 年の転入数、転出数（性別）≫

紀宝町 年齢(5歳階級)別 転入数(性別)



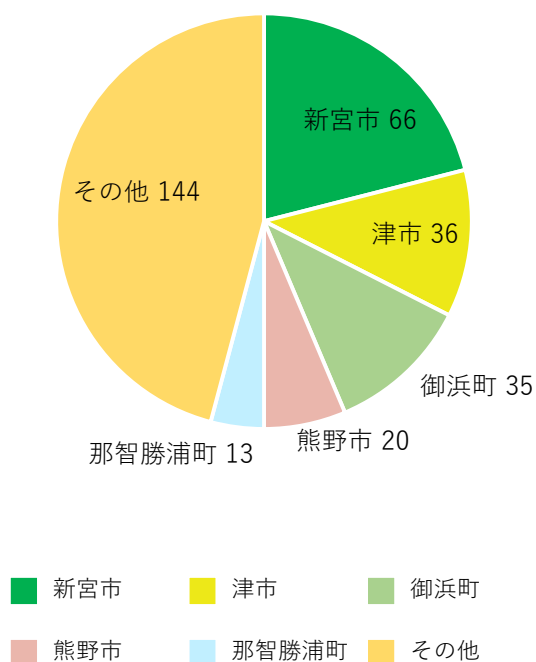
紀宝町 年齢(5歳階級)別 転出数(性別)



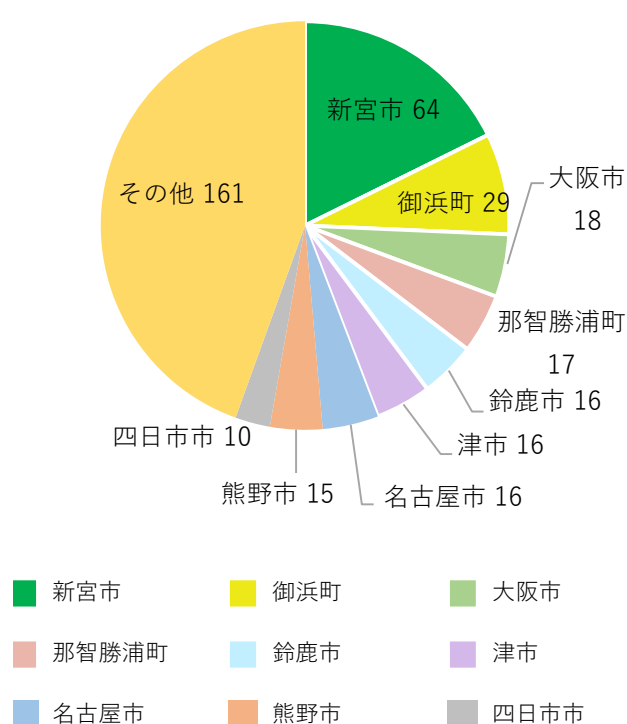
【出典】平成 27 年国勢調査

《転入数・転出数内訳》

転入数内訳（2019 年）



転出数内訳（2019 年）



《転入数（総数）》

(人)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2017 年	新宮市 73	津市 19	大阪市 11	熊野市 10	その他 148					
2018 年	新宮市 60	津市 35	熊野市 32	大阪市 17	御浜町 15	その他 130				
2019 年	新宮市 66	津市 36	御浜町 35	熊野市 20	那智勝浦町 13	その他 144				

《転出数（総数）》

(人)

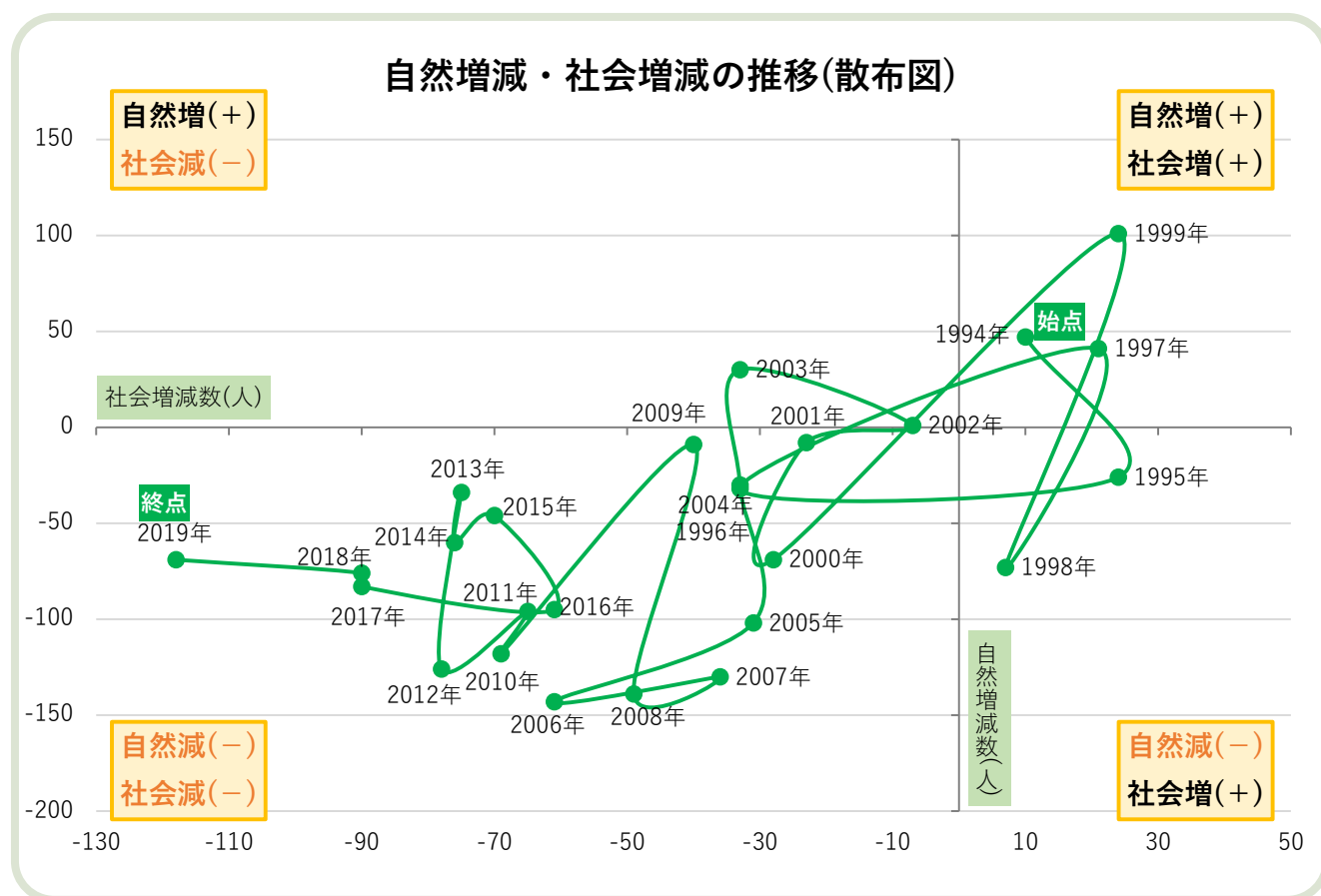
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2017 年	新宮市 61	津市 28	大阪市 21	御浜町 20	松阪市 19	名古屋市 16	熊野市 15	那智勝浦町 13	伊勢市 12	その他 141
2018 年	津市 30	御浜町 28	大阪市 23	熊野市 17	四日市市 12	その他 245				
2019 年	新宮市 64	御浜町 29	大阪市 18	那智勝浦町 17	鈴鹿市 16	津市 16	名古屋市 16	熊野市 15	四日市市 10	その他 161

【出典】地域経済分析システム（RESAS）、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

<自然増減・社会増減の総人口推移への影響>

次の散布図は自然増減と社会増減が総人口の推移に与えてきた影響をみた図で、横軸が社会増減の影響、縦軸が自然増減の影響を表しています。

「自然増減」については、1995 年から 2004 年までの間は増減を繰り返しており、波があったものの、2004 年以降は減少傾向となっています。また、「社会増減」については、2000 年以降、社会減が加速していることから、全体として急激な人口減少を招いています。



【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 査」再編加工。

【注記】2012 年までは年度データ、2013 年以降は年次データ。2011 年までは日本人のみ、2012 年以降は外国人を含む数字。

(2) 国より提供された紀宝町の人口推計シミュレーション

将来人口ビジョンの推計にあたり、参考とするため、国から提供された人口推計シミュレーションを使い、紀宝町の人口を推計してみると、以下のようになります。

①総人口の推計

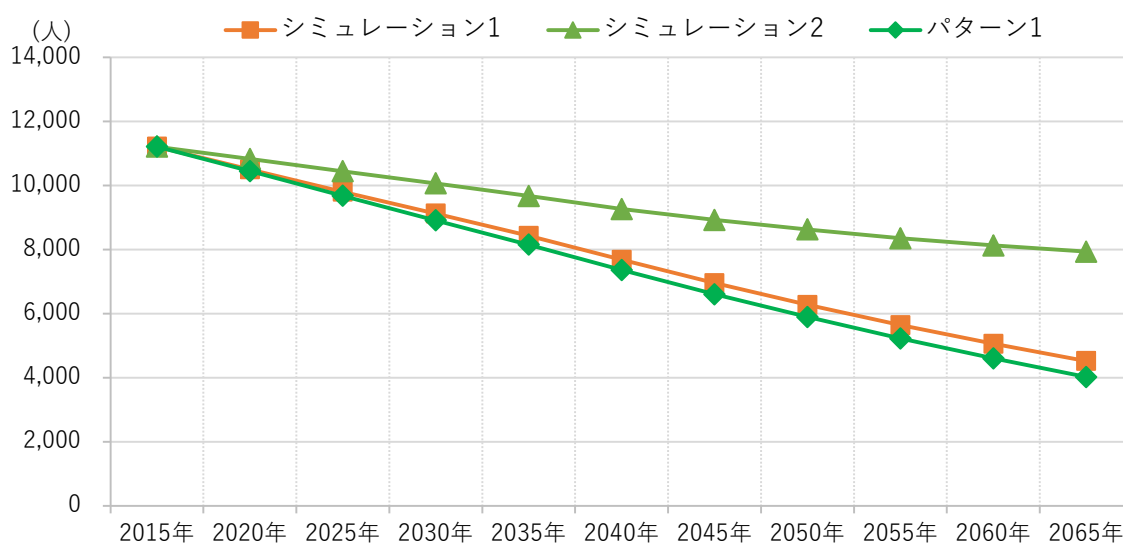
- シミュレーション1** 合計特殊出生率^(注3)が人口置換水準^(注4)の2.1まで上昇したとした場合のシミュレーション
- シミュレーション2** 合計特殊出生率が人口置換率の2.1まで上昇し、かつ人口移動が均衡したとした(移動がゼロとなった)場合のシミュレーション
- パターン1** 全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計(国立社会保障・人口問題研究所推計準拠(以下、「社人研推計」))

<各シミュレーションによる総人口推計結果>

(人)

	シミュレーション1	シミュレーション2	パターン1
2015年	11,207	11,207	11,207
2020年	10,500	10,826	10,448
2025年	9,800	10,442	9,674
2030年	9,120	10,062	8,909
2035年	8,425	9,670	8,147
2040年	7,678	9,260	7,359
2045年	6,952	8,922	6,602
2050年	6,272	8,623	5,891
2055年	5,638	8,349	5,220
2060年	5,058	8,123	4,600
2065年	4,517	7,930	4,017

紀宝町 総人口推計シミュレーション



(注3) 合計特殊出生率とは、15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの

(注4) 人口置換水準とは、人口を長期的に一定に保てる水準

②老年人口比率推移

パターン1

全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計（社人研推計準拠）

シミュレーション1

合計特殊出生率（注3）が人口置換水準（注4）の2.1まで上昇したとした場合のシミュレーション

シミュレーション2

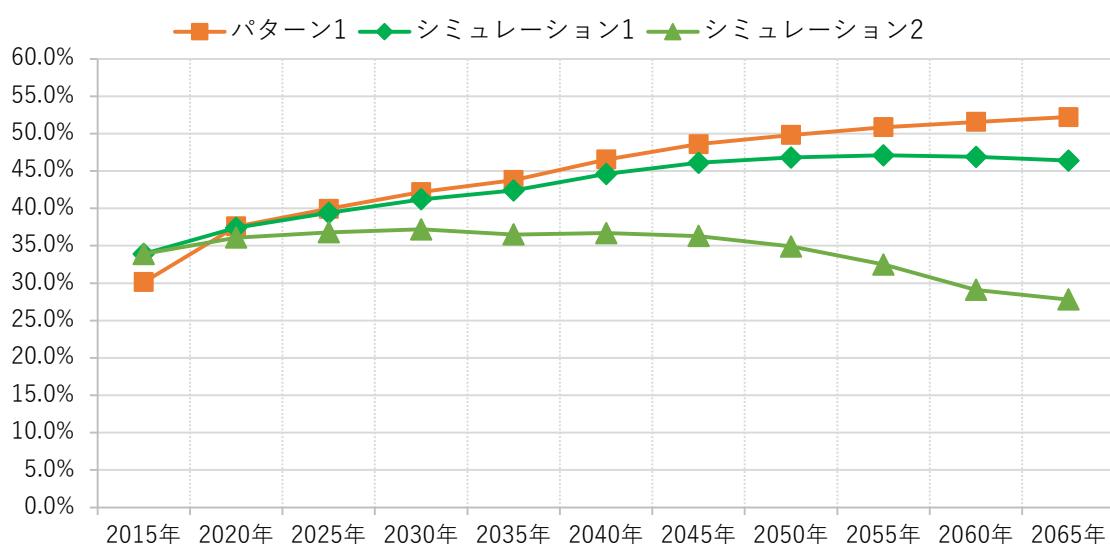
合計特殊出生率が人口置換率の2.1まで上昇し、かつ人口移動が均衡したとした（移動がゼロとなった）場合のシミュレーション

<老年人口比率推移のシミュレーション結果>

（人）

	パターン 1	シミュレーション 1	シミュレーション 2
2015 年	30.2%	33.9%	33.9%
2020 年	37.6%	37.4%	36.1%
2025 年	39.9%	39.4%	36.8%
2030 年	42.2%	41.2%	37.2%
2035 年	43.8%	42.4%	36.5%
2040 年	46.5%	44.6%	36.7%
2045 年	48.6%	46.1%	36.3%
2050 年	49.8%	46.8%	34.9%
2055 年	50.9%	47.1%	32.5%
2060 年	51.6%	46.9%	29.1%
2065 年	52.2%	46.4%	27.8%

老年人口比率推移



③自然増減・社会増減の影響度の比（三重県内の市町）

自然増減・社会増減の影響度を国が設定した次の基準により、紀宝町の将来人口に及ぼす自然増減、社会増減の影響度について分析します。

紀宝町は、自然増減が「3」、社会増減が「4」となりますが、影響率からみると、「自然増減の影響率」105.30%、「社会増減の影響率」128.34%と、自然増減に比べ社会増減による影響が大きいことが分かります。

自然増減の影響度

シミュレーション1の総人口/パターン1の総人口の数値に応じて、以下の5段階に整理。
「1」100%未満、「2」100～105%、「3」105～110%、「4」110～115%、「5」115%以上。

社会増減の影響度

シミュレーション2の総人口/シミュレーション1の総人口の数値に応じて、以下の5段階に整理。
「1」100%未満、「2」100～110%、「3」110～120%、「4」120～130%、「5」130%以上。

<自然増減・社会増減の影響度・影響率（2045年）>

自然増減の影響度	社会増減の影響度	自然増減の影響率	社会増減の影響率
3	4	105.30%	128.34%

<自然増減と社会増減の影響度（将来）>

		自然増減の影響度（2045年）					
		1	2	3	45		総計(団体数)
社会増減の影響度（2045年）	1	朝日町	川越町	菰野町、四日市市、伊勢市、桑名市、いなべ市、玉城町			8 (27.59%)
	2		亀山市	明和町、多気町、鈴鹿市、松阪市、東員町、津市			7 (24.14%)
	3			度会町、名張市		木曽岬町	3 (10.34%)
	4		御浜町	紀宝町 紀北町			3 (10.34%)
	5		熊野市、尾鷲市	大台町、大紀町、南伊勢町、志摩市、伊賀市	鳥羽市		8 (27.59%)
総計(団体数)		1 (3.45%)	5 (17.24%)	21 (72.41%)	1 (3.45%)	1 (3.45%)	29 (100.00%)

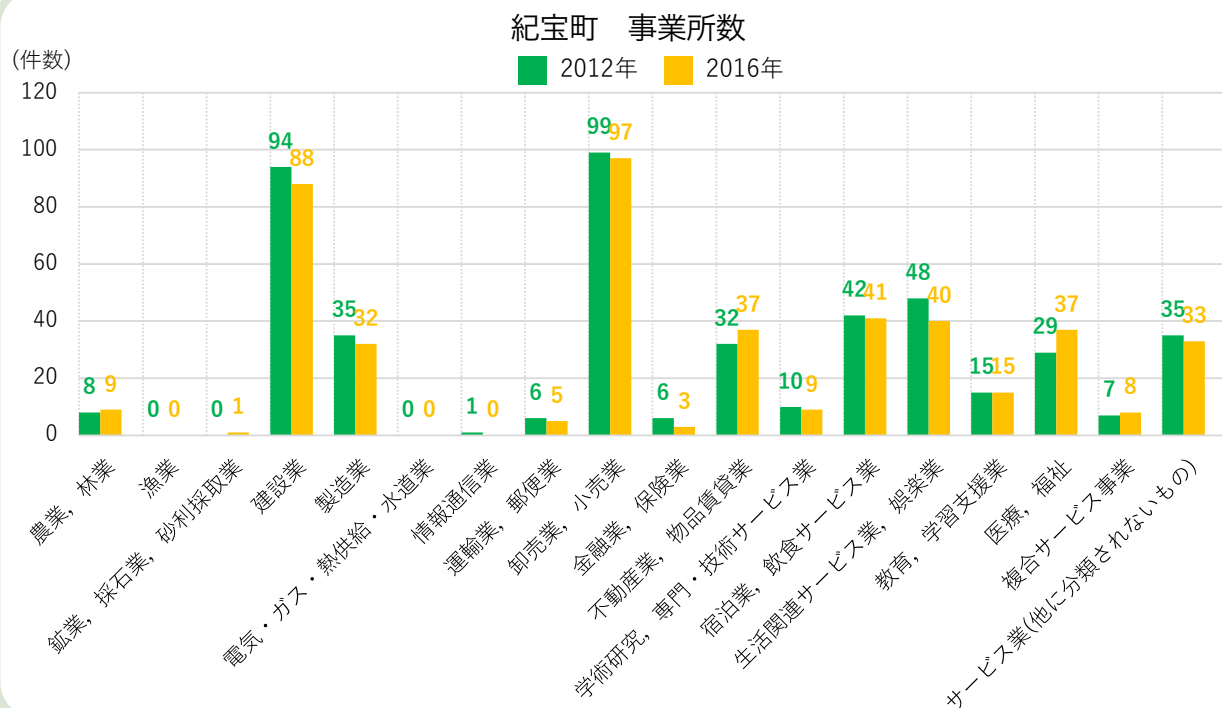
(3) 紀宝町の産業及び就業状況

2012年から2016年にかけて、紀宝町内の事業所数は全体で12件減少しています。最も減少しているのは、「生活関連サービス業、娯楽業」で8件、次いで「建設業」6件、「製造業」と「金融業、保険業」3件となっています。一方、増加しているのは、「医療、福祉」8件、「不動産業、物品賃貸業」5件となっています。

＜紀宝町事業所数の増減＞

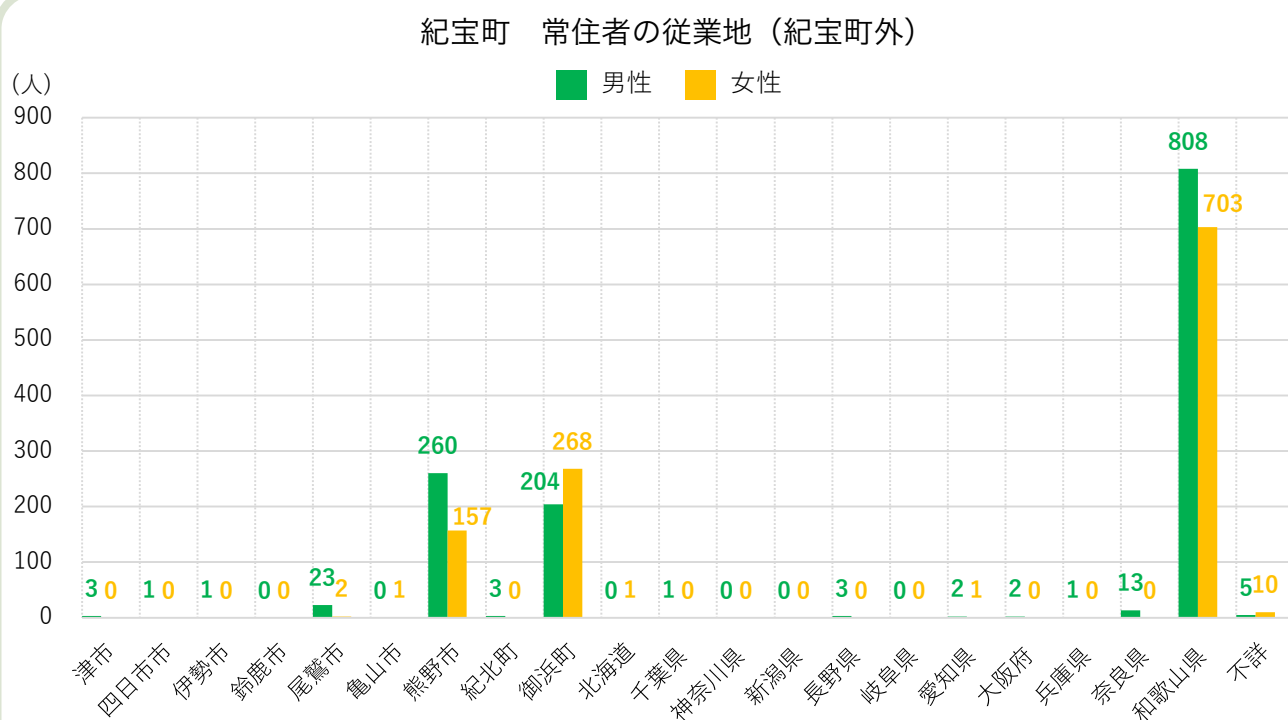
(人)

産業大分類	2012年	2016年	増減
農業、林業	8	9	1
漁業	0	0	0
鉱業、採石業、砂利採取業	0	1	1
建設業	94	88	-6
製造業	35	32	-3
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	0
情報通信業	1	0	-1
運輸業、郵便業	6	5	-1
卸売業、小売業	99	97	-2
金融業、保険業	6	3	-3
不動産業、物品賃貸業	32	37	5
学術研究、専門・技術サービス業	10	9	-1
宿泊業、飲食サービス業	42	41	-1
生活関連サービス業、娯楽業	48	40	-8
教育、学習支援業	15	15	0
医療、福祉	29	37	8
複合サービス事業	7	8	1
サービス業（他に分類されないもの）	35	33	-2
合計	467	455	-12



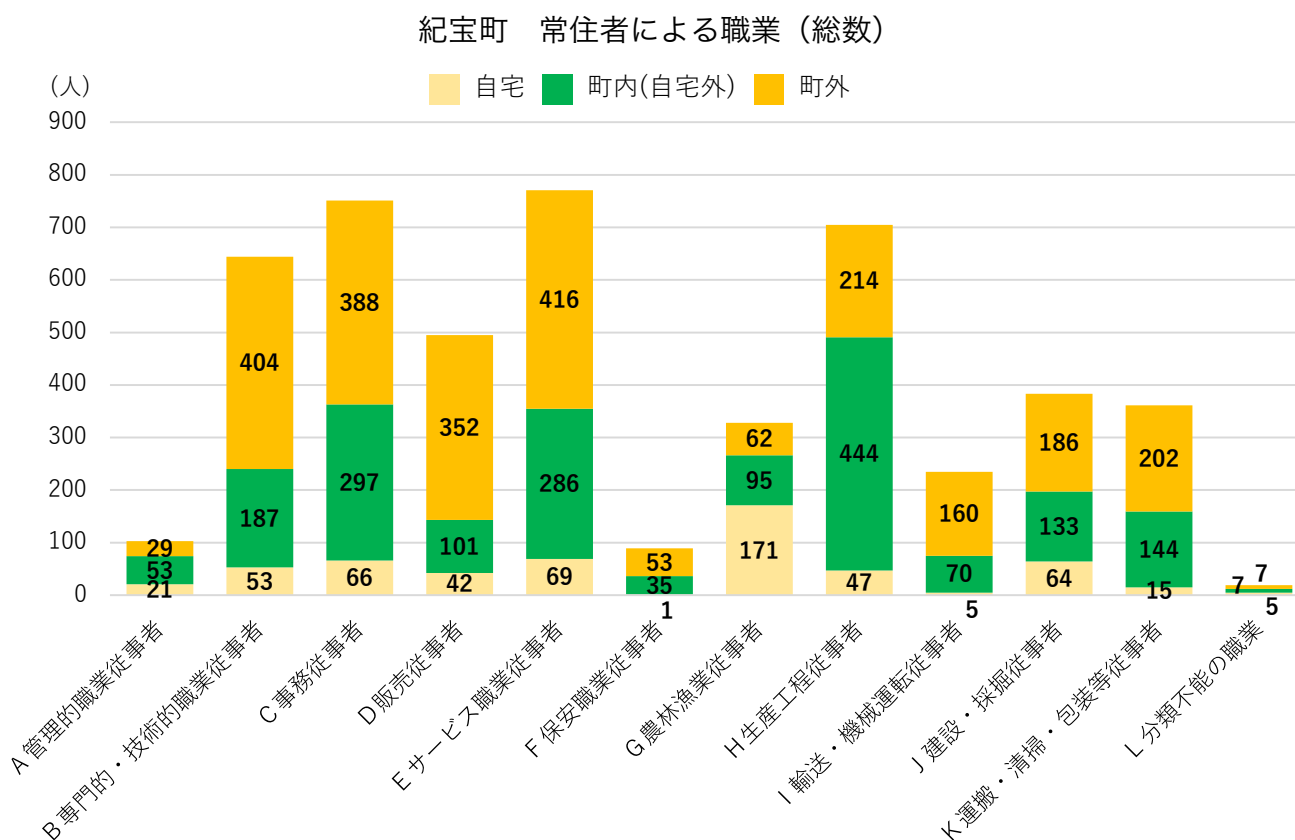
※地域経済分析システム（RESAS）

「紀宝町常住者の従業地（紀宝町外）」



【出典】平成 27 年国勢調査

＜紀宝町常住者による職業（総数）＞



2 長期人口ビジョンとその考え方

(1) 合計特殊出生率の推移と人口推移

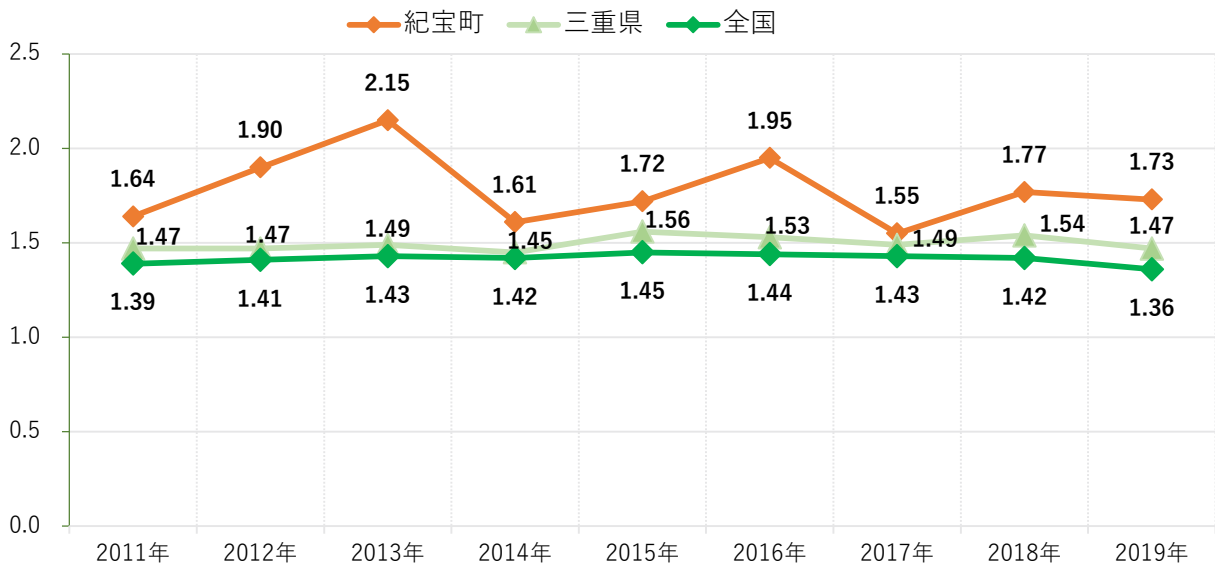
《紀宝町の合計特殊出生率の推移（三重県・全国比較）》



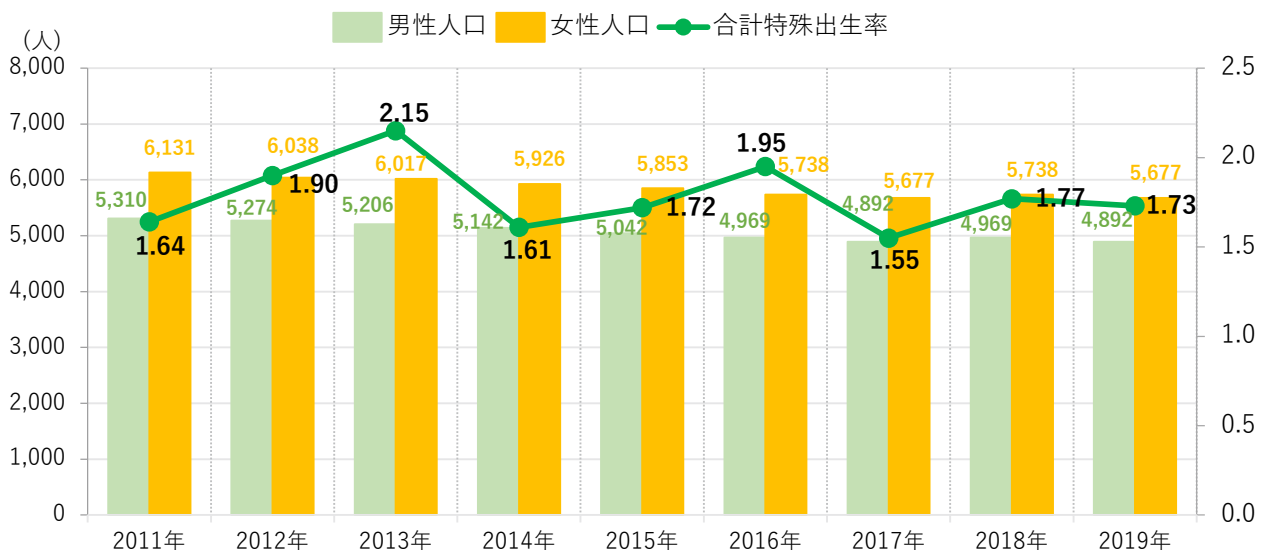
	紀宝町	三重県	全国
2011年	1.64	1.47	1.39
2012年	1.90	1.47	1.41
2013年	2.15	1.49	1.43
2014年	1.61	1.45	1.42
2015年	1.72	1.56	1.45
2016年	1.95	1.53	1.44
2017年	1.55	1.49	1.43
2018年	1.77	1.54	1.42
2019年	1.73	1.47	1.36
平均	1.78	1.50	1.42

【出典】人口動態調査

合計特殊出生率（推移）



紀宝町 合計特殊出生率と人口推移



(2) 未婚率の県内比較

紀宝町の未婚率(注5)をみると、県内29市町のうち、男性25位(未婚率42.7%)、女性23位(未婚率31.0%)と、未婚率では良好な状況にあります。

<男性未婚率>

順位	市町村	未婚率
1	南伊勢町	60.8%
2	木曽岬町	58.4%
3	いなべ市	55.4%
4	鳥羽市	53.6%
5	大紀町	52.8%
6	志摩市	51.6%
7	紀北町	51.1%
8	伊賀市	51.1%
9	東員町	50.8%
10	多気町	50.7%
11	大台町	48.6%
12	熊野市	48.5%
13	四日市市	47.8%
14	度会町	47.5%
15	伊勢市	47.4%
16	津市	47.3%
17	鈴鹿市	46.5%
18	桑名市	46.5%
19	名張市	46.0%
20	尾鷲市	45.7%
21	松阪市	45.5%
22	亀山市	44.4%
23	菰野町	44.2%
24	明和町	43.3%
25	紀宝町	42.7%
26	御浜町	42.5%
27	玉城町	39.8%
28	川越町	38.7%
29	朝日町	29.2%

<女性未婚率>

順位	市町村	未婚率
1	木曽岬町	47.0%
2	南伊勢町	42.4%
3	鳥羽市	41.2%
4	大紀町	40.2%
5	志摩市	39.5%
6	伊勢市	37.4%
7	東員町	37.3%
8	いなべ市	35.5%
9	熊野市	35.2%
10	名張市	34.9%
11	尾鷲市	34.8%
12	度会町	34.5%
13	大台町	34.3%
14	多気町	34.2%
15	伊賀市	34.2%
16	津市	34.0%
17	桑名市	33.8%
18	松阪市	33.7%
19	四日市市	33.5%
20	紀北町	33.3%
21	明和町	32.2%
22	鈴鹿市	31.8%
23	紀宝町	31.0%
24	亀山市	30.4%
25	菰野町	30.0%
26	御浜町	29.1%
27	川越町	28.6%
28	玉城町	27.5%
29	朝日町	20.3%

【出典】平成27年国勢調査

(注5) 男性未婚率=未婚人口(25歳～39歳)[男]÷人口(25歳～39歳)[男]×100

女性未婚率=未婚人口(25歳～39歳)[女]÷人口(25歳～39歳)[女]×100

(3) 住民アンケート調査結果（一般）

「第2次紀宝町総合計画後期基本計画・第2期紀宝町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けた町民アンケート調査（一部抜粋）

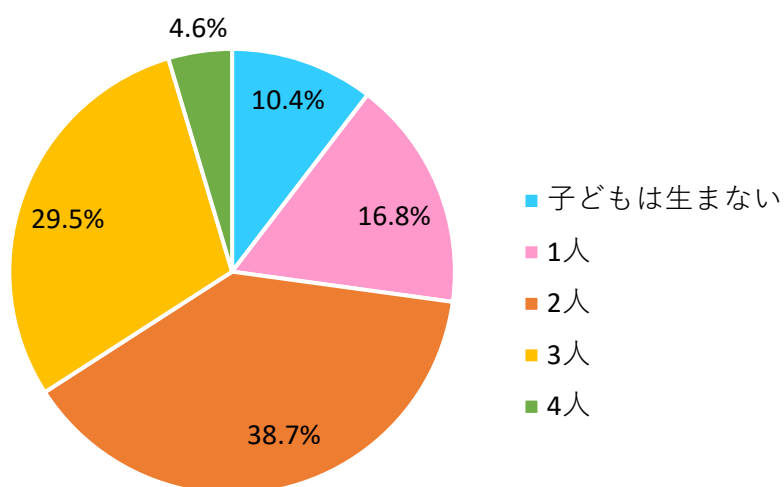
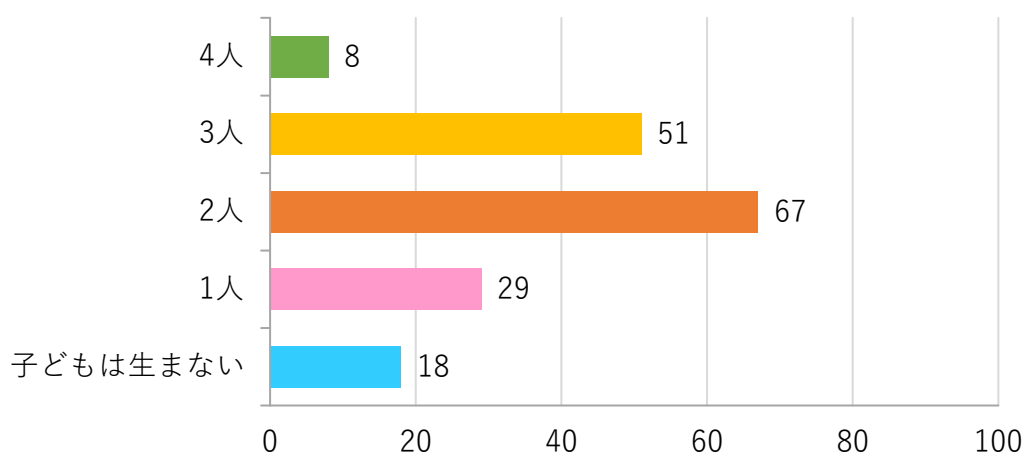
実施期間：令和2年12月

対 象：一般（18歳以上）1,100人 有効回収数 497人 有効回収率 45.2%

①予定している子どもの数は何人ですか（既婚者女性を対象）

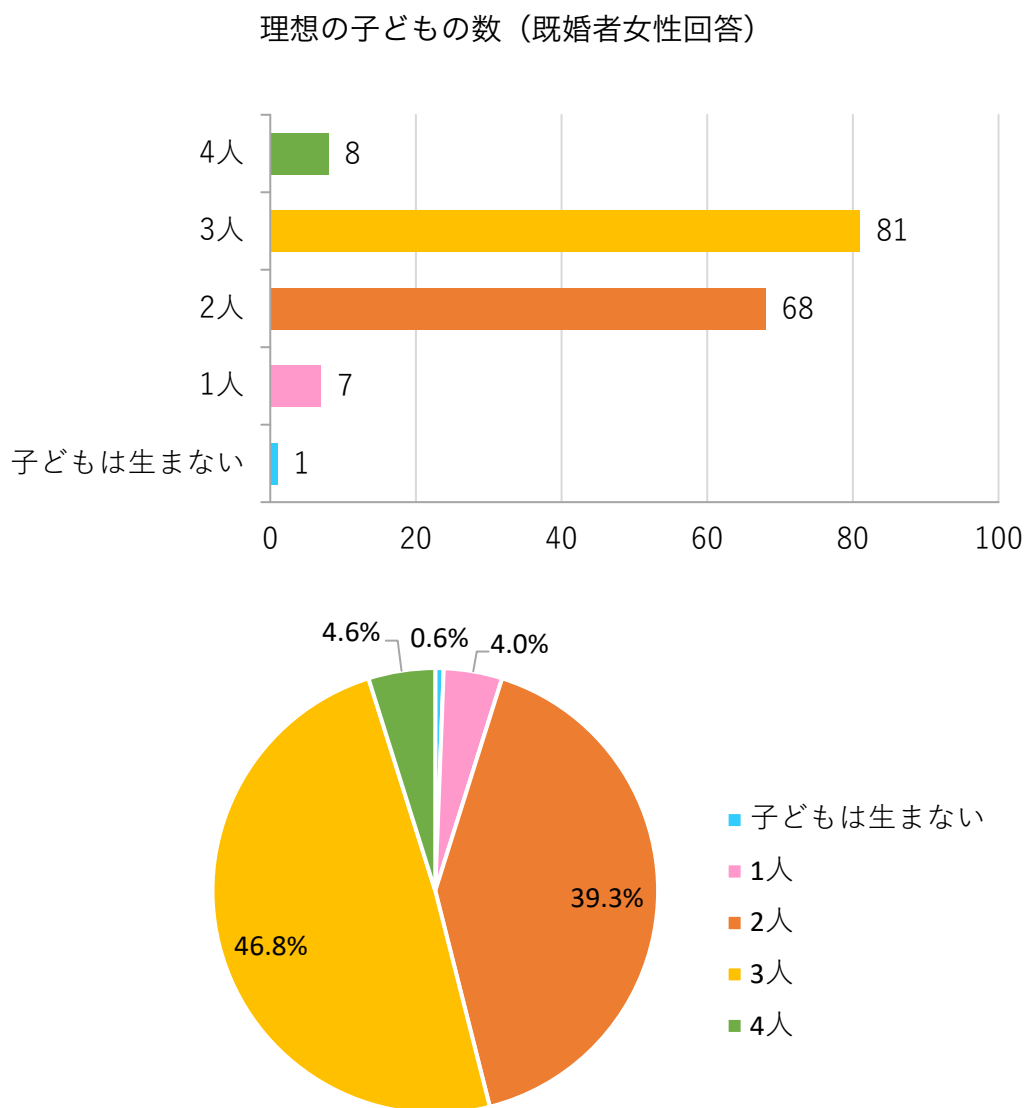
「予定している子どもの数」で最も多いのが2人（67人・38.7%）、次に3人（51人・29.5%）となっています。回答数（173人）での平均は2.01人となっています。

予定している子どもの数（既婚者女性回答）



②理想の子どもの数は何人ですか（既婚者女性を対象）

「理想の子どもの数」で最も多いのが3人（81人・46.8%）、次に2人（68人・39.3%）となっています。
回答数（165人）での平均は2.41人となっています。



③ 「予定している子どもの数」が「理想の子どもの数」を下回る理由

「理想の子どもの数」の回答平均は 2.41 人であるものの、「予定している子どもの数」の回答平均では 2.01 人と 0.4 人少なくなっています。この理由について聞くと、「子育てや教育にお金がかかるから」が最も多く、回答 56 人のうち、24 人（42.9%）を占めています。

人口減少を抑制するには出産前から出産後のソフト・ハード面の支援体制の充実による出生率向上を目指すとともに、定住者の流出抑制と出産世代の流入促進を図っていく必要があります。

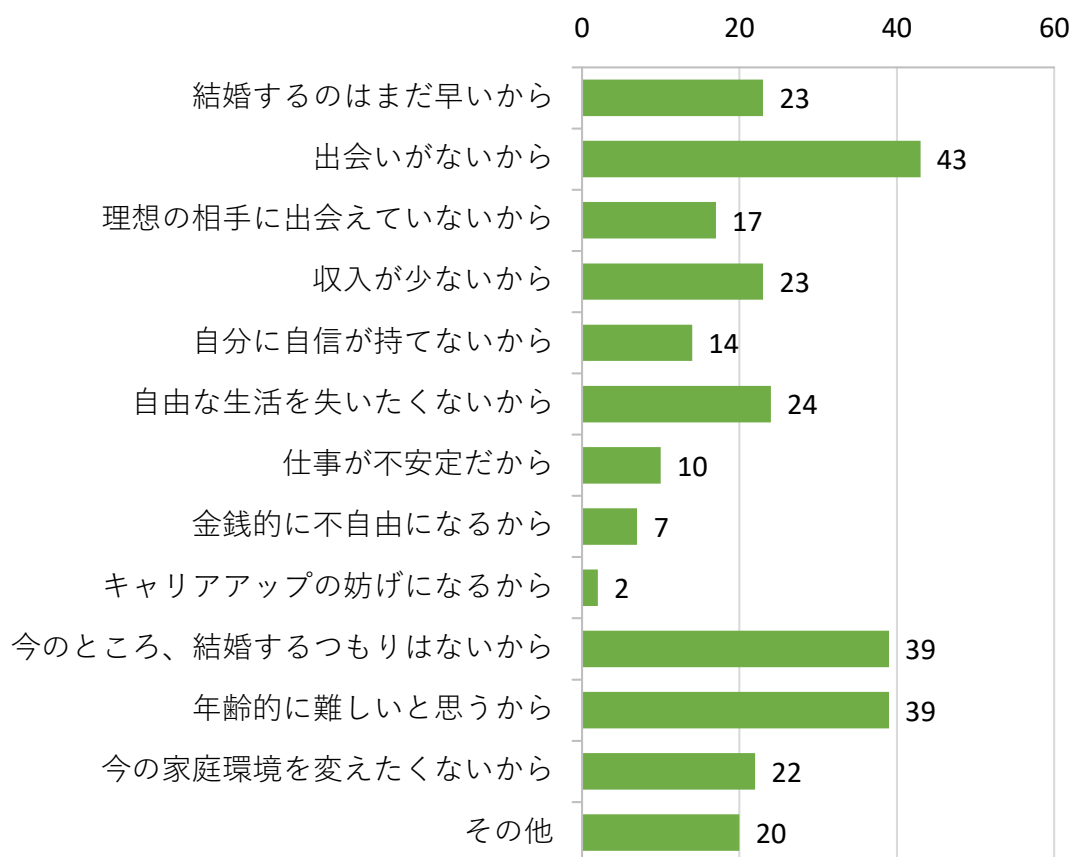
「予定している子どもの数」が「理想の子どもの数」を下回る理由（複数回答）



④結婚していない理由（未婚・離婚・死別の方を対象）

「出会いがないから」が最も多く、回答者 146 人のうち 43 人（29.5%）を占めています。その次に多いのが「今のところ、結婚するつもりはないから」と「年齢的に難しいと思うから」が 39 人（26.7%）で並んでいます。

結婚しない理由（未婚・離婚・死別）（複数回答）



(4) 中学生アンケート調査結果

紀宝町内の各中学校に依頼し、中学３年生を対象にしたアンケートを実施しました。

中学生アンケート調査結果（一部抜粋）

実施期間：令和３年１０月

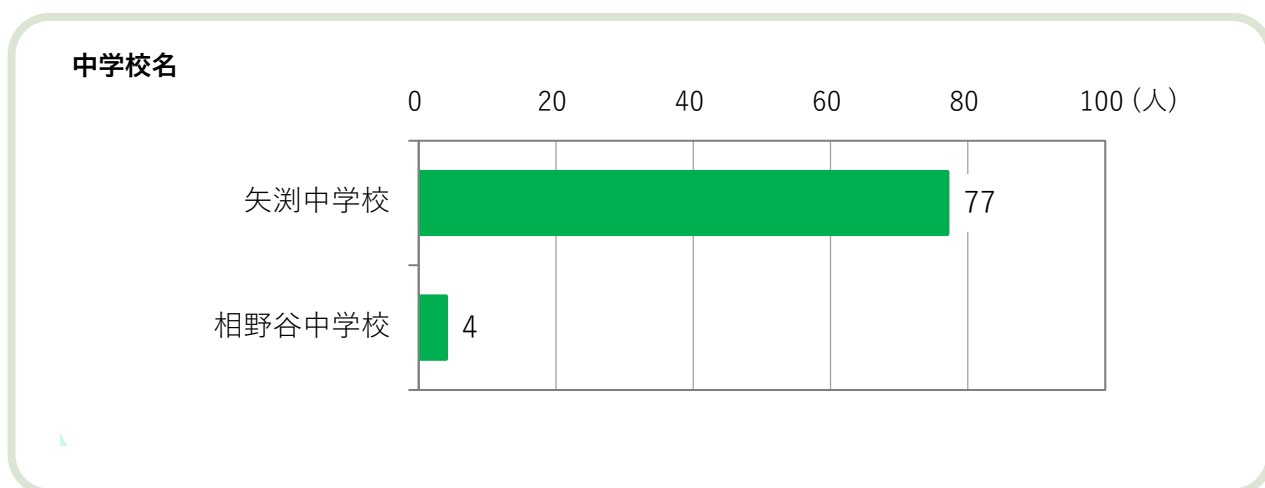
対 象：町内の中学３年生

回収内訳：①矢渕中学校 回収数 77 件

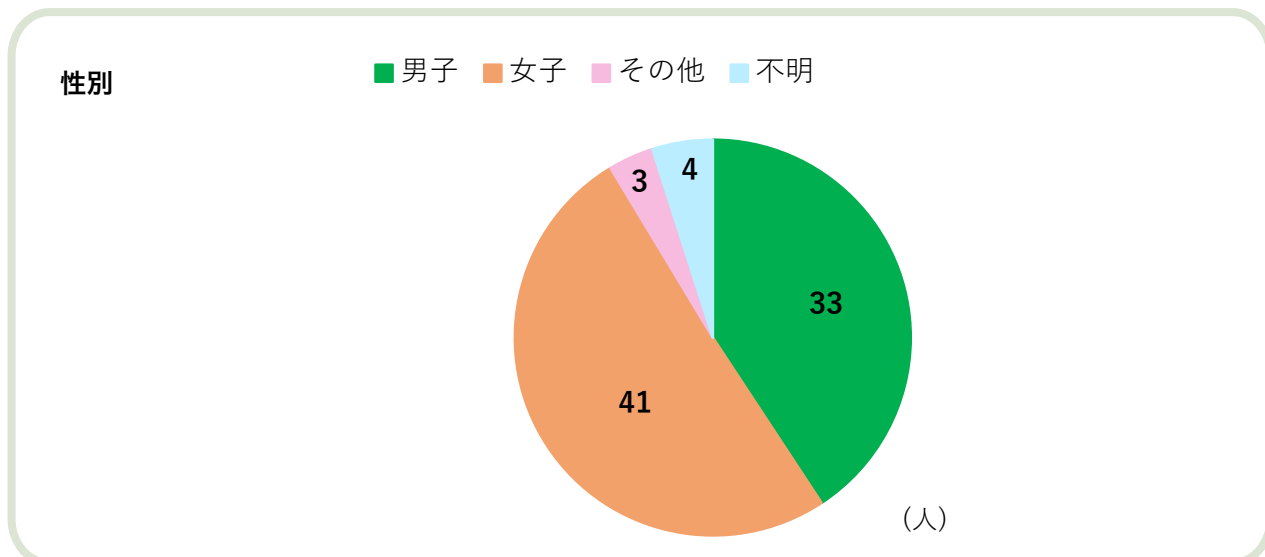
②相野谷中学校 回収数 4 件

①属性について

町内２つの中学校にアンケートを実施した結果、回収数は「矢渕中学校」77人、「相野谷中学校」4人の合計81人でした。



回答者の性別については、「女性」41人、「男性」33人と、「女性」がやや多く、「その他」は3人となっています。

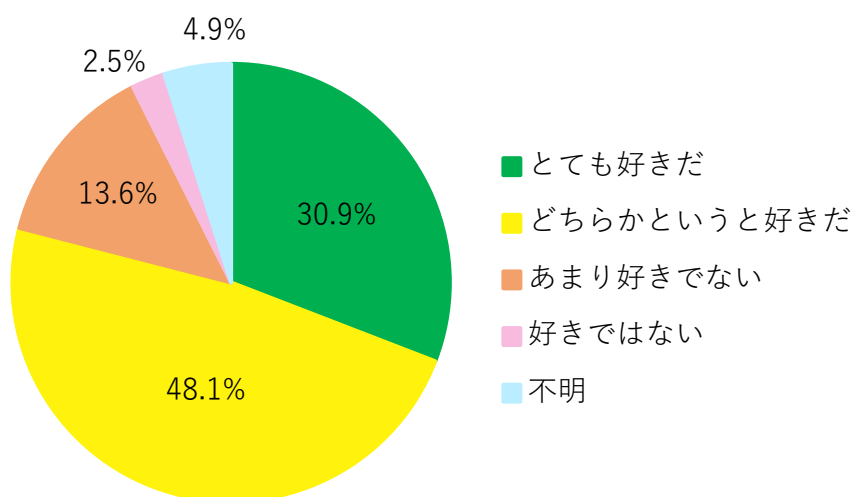
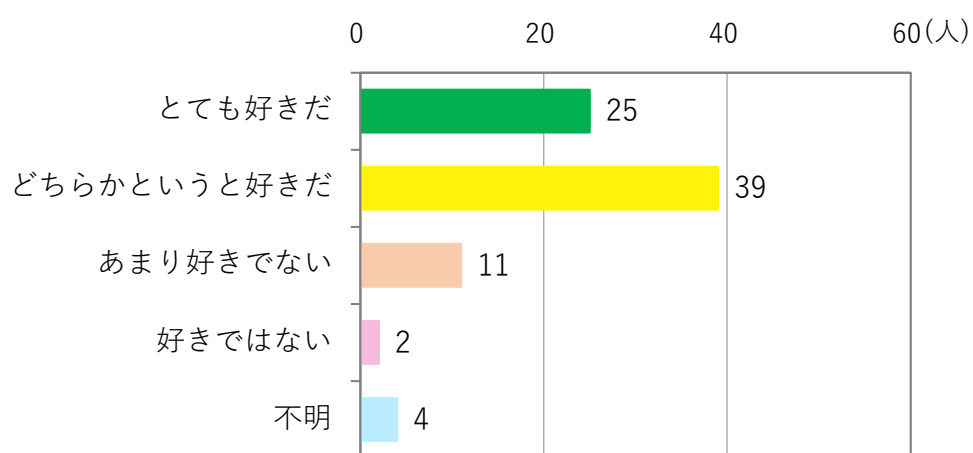


②紀宝町は好きですか

「紀宝町が好きですか」についての回答では、「どちらかというと好きだ」(39人・48.1%)が最も多く、次いで「とても好きだ」(25人・30.9%)、「あまり好きでない」(11人・13.6%)、「好きではない」(2人・2.5%)と続いています。

「とても好きだ」と「どちらかというと好きだ」を合計した『好き』は、64人(79.0%)となり、中学3年生の約80%が紀宝町のことが好きであるという結果が出ています。

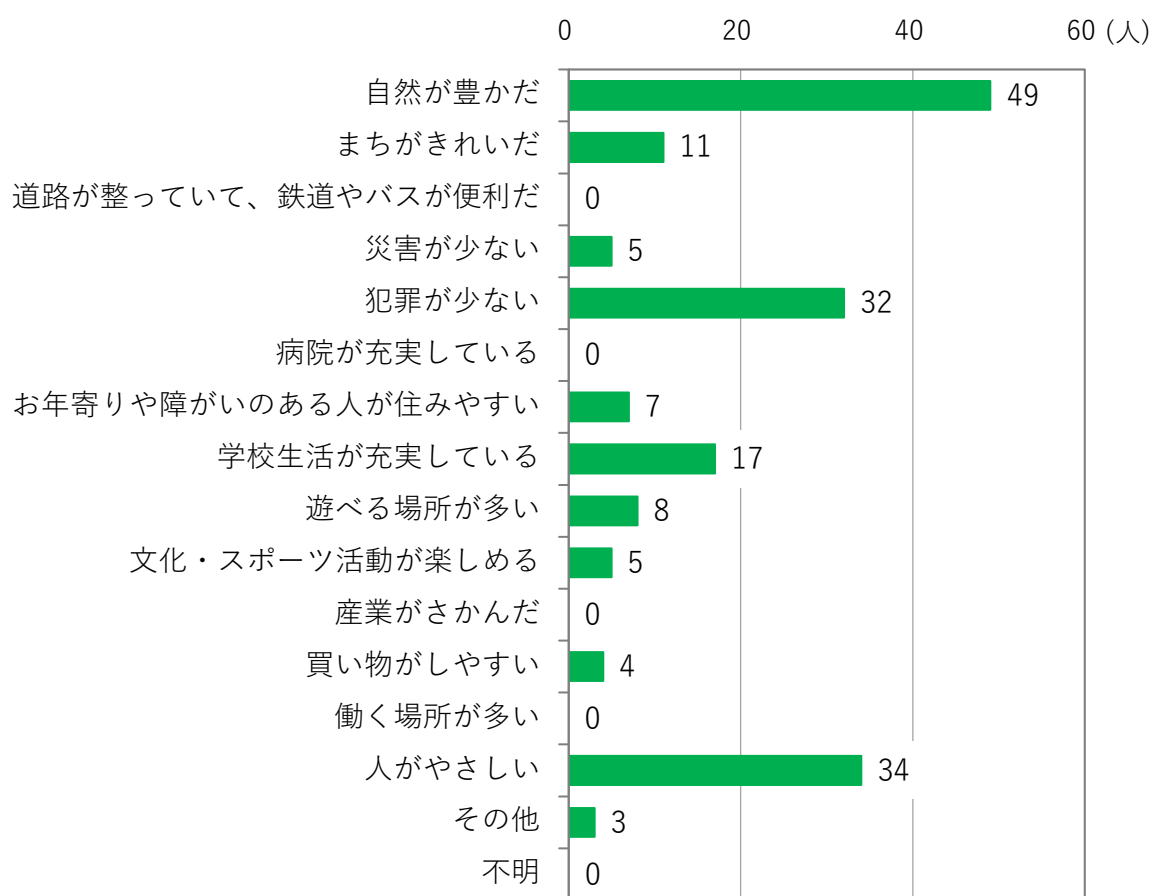
紀宝町は好きですか



③紀宝町のどんなところが好きですか

質問②で、紀宝町が「とても好きだ」、「どちらかというと好きだ」と回答した 64 人を対象に、「紀宝町のどんなところが好きですか」と聞いたところ、「自然が豊かだ」(49 人・76.6%) が最も多く、次いで「人がやさしい」(34 人・53.1%)、「犯罪が少ない」(32 人・50.0%) と続いています。

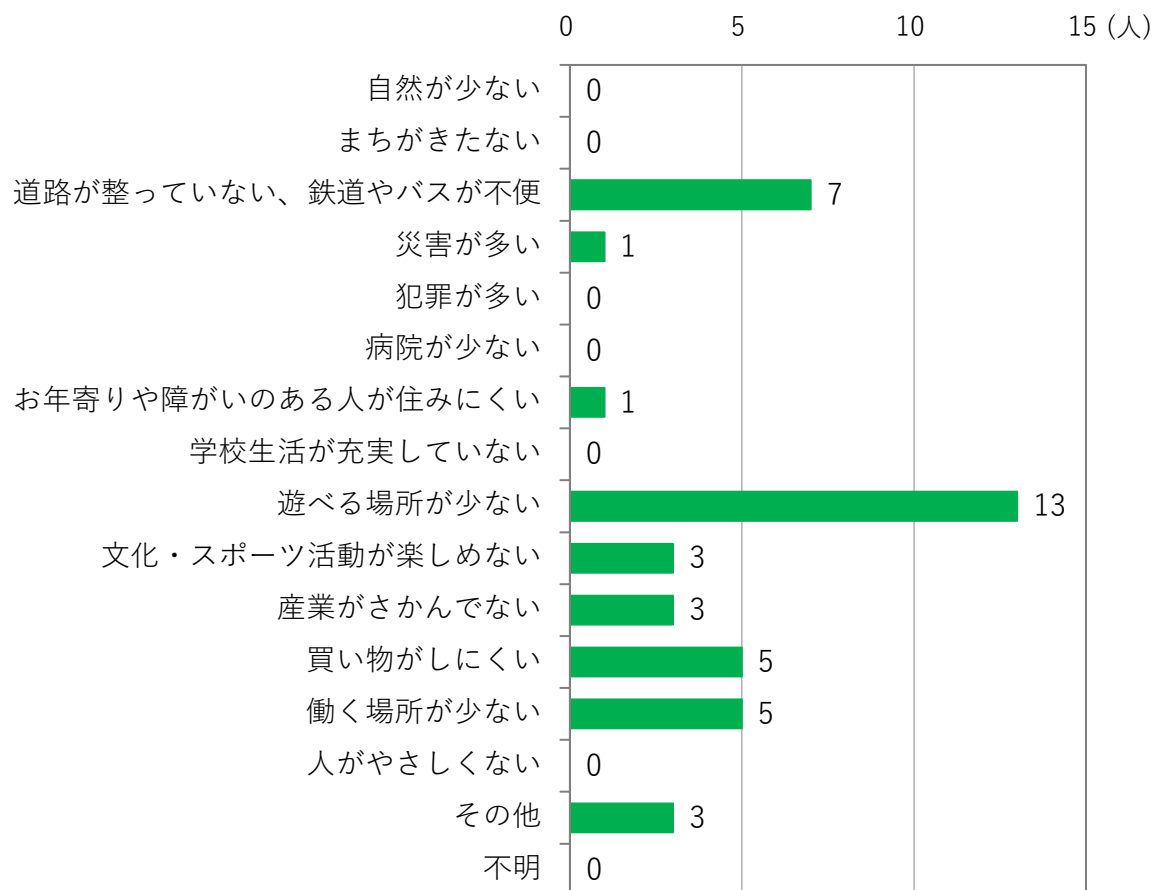
紀宝町のどんなところが好きですか (複数回答)



④紀宝町を好きでない理由

質問②で、紀宝町が「あまり好きでない」、「好きではない」と回答した13人を対象に、「紀宝町を好きではない理由」を聞いたところ、13人全員が「遊べる場所が少ない」と回答しています。次いで「道路が整っていない、鉄道やバスが不便」(7人・53.8%)、「買い物がしにくい」と「働く場所が少ない」が同率(5人・38.5%)で続いています。

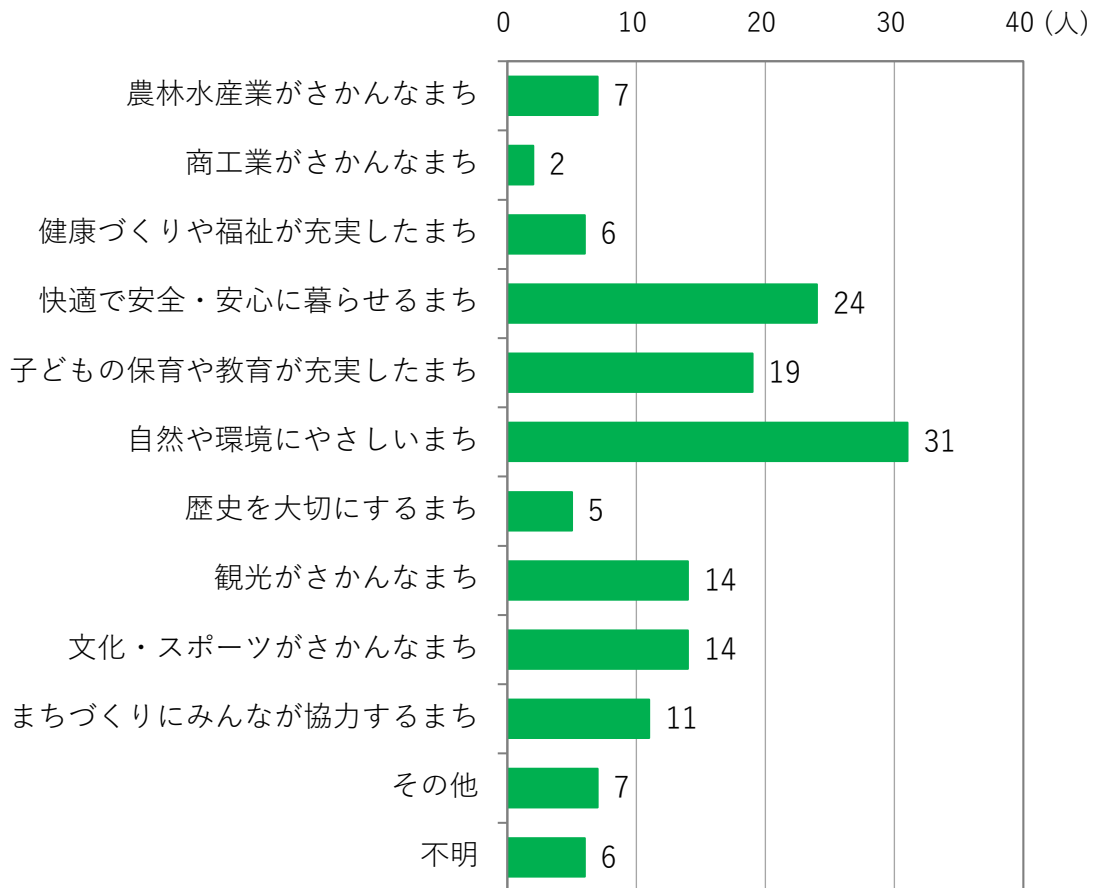
紀宝町を好きでない理由 (複数回答)



⑤紀宝町はどんな町になってほしいですか

「紀宝町はどんな町になってほしいですか」について全員に聞いたところ、第1位が「自然や環境にやさしいまち」(31人・41.3%)、第2位が「快適で安全・安心に暮らせるまち」(24人・32.0%)、第3位が「子どもの保育や教育が充実したまち」(19人・25.3%)となっています。

紀宝町はどんな町になってほしいですか（複数回答）



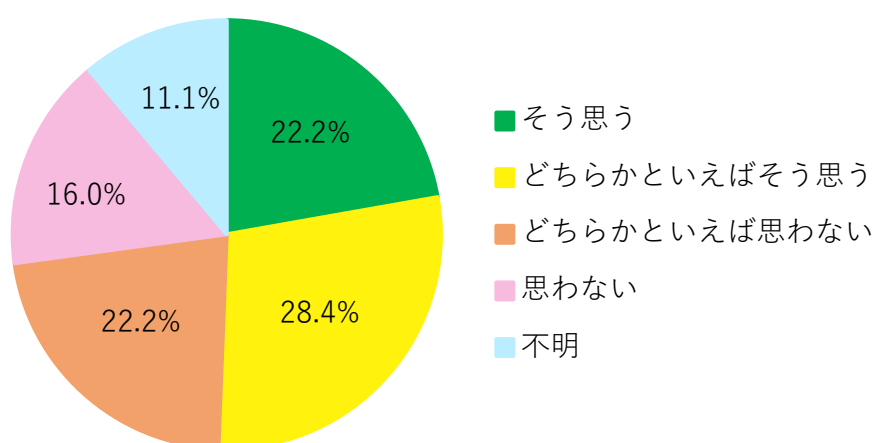
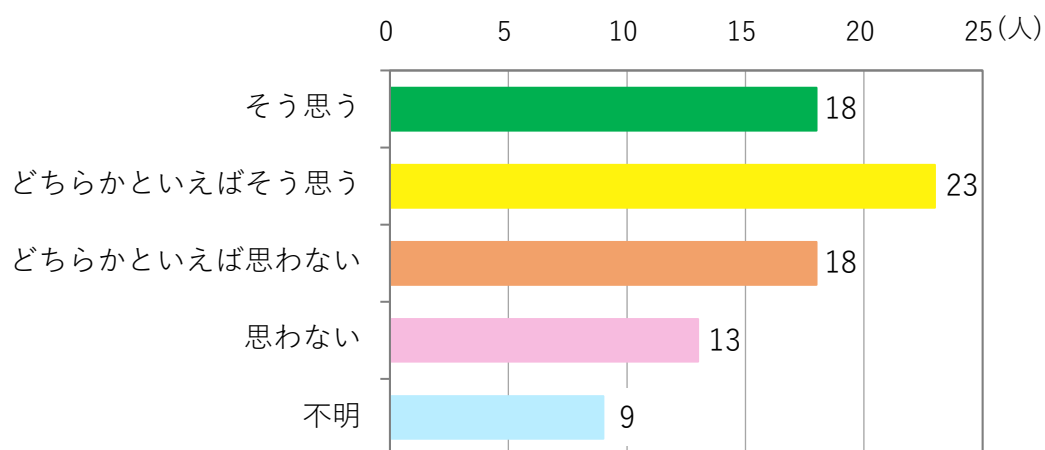
⑥将来、就職や進学で紀宝町を離れたとしても、また紀宝町に戻ってきたいと思いますか

「就職や進学で紀宝町を離れたとしても、また紀宝町に戻ってきたいと思いますか」については、「どちらかといえばそう思う」(23人・28.4%)が最も多く、次いで「そう思う」と「どちらかといえば思わない」が同率(18人・22.2%)で続いています。

一方、「思わない」は13人(16.0%)となっています。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『そう思う』は回答81人中41人(50.6%)となり、中学3年生の約半数は戻ってきたいという意向を持っている結果が出ました。

紀宝町に戻ってきたいと思いますか



3 紀宝町人口ビジョン策定に向けた人口推計シミュレーション

【シミュレーション (2020 年出生率 1.8+ 社会増減 2035 年まで ±0)】

紀宝町における合計特殊出生率の過去 9 年間平均は 1.78 であることから、シミュレーションにおける 2020 年の合計特殊出生率 (スタート値) を 1.80 と設定し、三重県の将来展望に示された南部地域合計特殊出生率は 2040 年に 2.10 を達成する目標に設定しているところ、紀宝町では 5 年早く 2035 年に 2.10 を達成する目標としています。

また、社会増減 ±0 の達成は、2045 年までに達成する目標としています。更に、2020 年の人口については 2021 年に発表された国勢調査の実績値を設定することとし、その他の条件については、社人研の推定条件に準拠しています。

【試算結果】

上記条件により、2045 年までに社会増減を 0 にすることで、2060 年の人口推計は社人研推計人口 4,600 人に対して、シミュレーションでは 6,343 人 (1,743 人増) と試算されました。

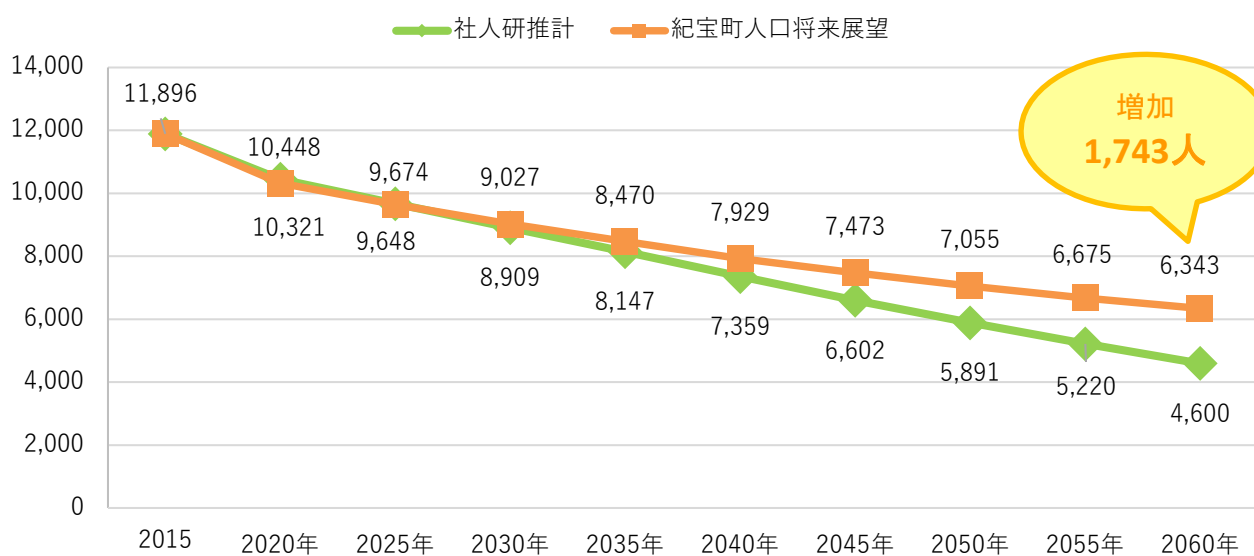
《合計特殊出生率・社会増減数の設定値》

	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年	2050 年	2055 年	2060 年
社人研設定出生率	1.54	1.61	1.64	1.64	1.60	1.59	1.59	1.59	1.59
紀宝町設定出生率	1.80	1.90	2.00	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
社会増減(転出入数)・ 5 年間累計	-318	-210	-138	-74	-34	0	0	0	0

《社人研推計と紀宝町独自総計の人口比較》

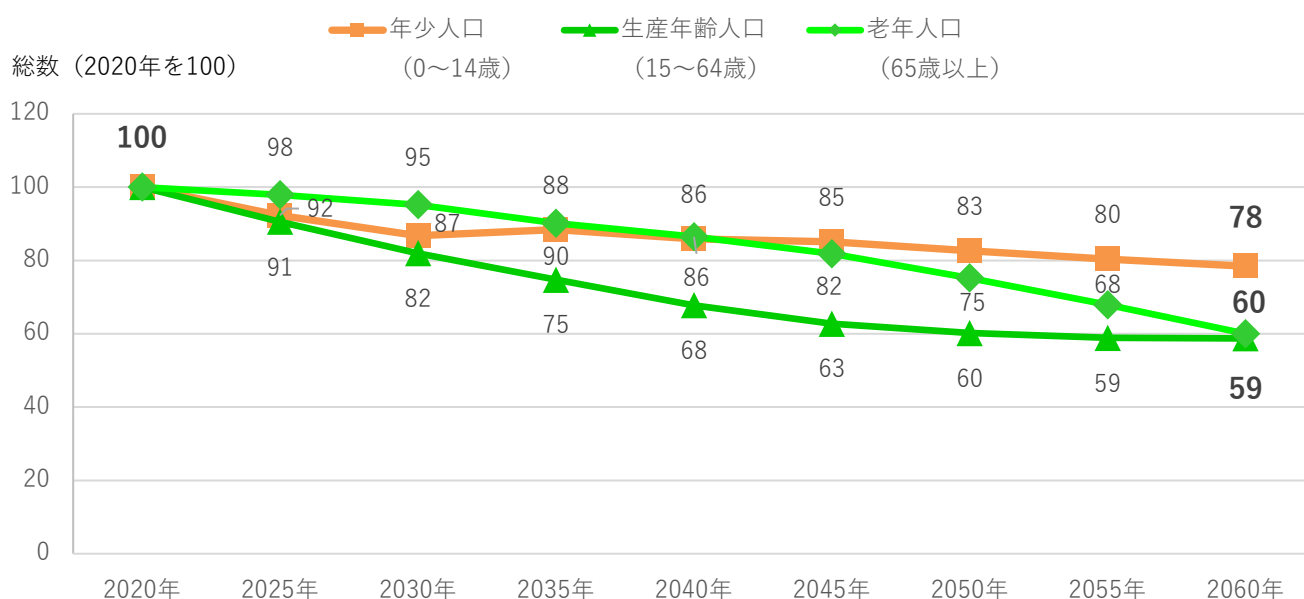
	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年	2050 年	2055 年	2060 年
社人研推計人口	11,896	10,448	9,674	8,909	8,147	7,359	6,602	5,891	5,220	4,600
紀宝町独自推計人口	11,896	10,321	9,648	9,027	8,470	7,929	7,473	7,055	6,675	6,343

紀宝町 将来人口推計



区分 \ 年		2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年	2050 年	2055 年	2060 年
人口推計	年少人口 (0～14 歳)	1,165	1,075	1,010	1,030	1,001	991	962	936	914
	生産年齢人口 (15～64 歳)	5,284	4,783	4,331	3,949	3,580	3,315	3,180	3,110	3,104
	老年人口 (65 歳以上)	3,872	3,790	3,686	3,491	3,348	3,168	2,913	2,629	2,325
指数	年少人口 (0～14 歳)	100	92	87	88	86	85	83	80	78
	生産年齢人口 (15～64 歳)	100	91	82	75	68	63	60	59	59
	老年人口 (65 歳以上)	100	98	95	90	86	82	75	68	60

将来人口推計による人口減少の段階（シミュレーション）



※国のワークシートを用いて試算

	2040 年			2060 年		
社人研推計	7,359 人	標準との差	改善率	4,600 人	標準との差	改善率
紀宝町独自推計	7,929 人	570 人	107.7%	6,343 人	1,743 人	137.9%

以上の結果から、紀宝町人口ビジョンは、シミュレーションで試算した、2020 年の合計特殊出生率を 1.80(8 年平均 1.79) と設定し、2035 年に 2.1 を達成する目標とします。

さらに、2045 年までには社会増減 0 を達成することにより、2060 年の推計人口は、社人研が推計する 4,600 人に対して、6,343 人(1,743 人増)で歯止めをかけることを目標とします。

第2章 紀宝町まち・ひと・しごと創生総合戦略

1 第1期総合戦略の成果と課題

(1) 数値目標及び重要業績評価指標（KPI）の達成状況

本町の第1期「総合戦略」では、「まち」「ひと」「しごと」の3つの視点を踏まえて、4つの基本目標を掲げ、地方創生に向けた取組を推進してきました。

基本目標ごとの達成状況や各施策の成果と課題は、以下のとおりです。

※新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に実施できなかった事業については令和元年度の実績と比較しています。

【数値目標の達成状況】

基本目標	成果指標	従前値①	実績値②	目標値③ (R3年度)	状況
1 安心して子どもを産み、育てられる「紀宝」	合計特殊出生率	1.76 (H18～H25年平均)	1.74 (H27～R1年度平均)	1.9以上 (H27～R3年度平均)	↓
2 だれもが働きやすい「紀宝」	新規創業件数	3件 (H27年度)	累計18件 (R2年度)	累計26件 (H27～R3年度)	↑
	生産年齢人口に占める就業者の割合	68% (H22年国勢調査の実績値)	71% (H27年国勢調査の実績値)	73%	↑
3 だれもが暮らしやすい「紀宝」	人口移動における社会増減	△60人 (H26年)	△76人 (R2年度)	△60人	↓
	住民アンケート調査で「紀宝町で住みたい」と答えた人の割合(%)	63.9% (H27年度)	70.7% (R2年度)	65.9%	↑
4 交流で賑わいあふれる「紀宝」	移住者数 (※企画調整課調べ)	8人 (H27年度)	累計126人 (H27～R3年度)	累計143人 (H27～R3年度)	↑
	観光入り込み客数	251,507人 (H26年)	183,888人 (R2年)	260,000人 (R3年)	↓
	住宅新築件数	32件 (H26年)	29件 (R2年)	44件	↓

「状況」は、従前値①に対し実績値②が「向上」↑、低下 ↓、「横ばい」→ を示す。

【重要業績評価指標（KPI）の達成状況】

■基本目標１ 安心して子どもを産み、育てられる「紀宝」

施策	指標	従前値①	実績値②	目標値③ (R3 年度)	状況
1 安心して子どもを産むことができる環境の充実	妊婦家庭訪問率	未実施 (H27 年度)	84.4% (R2 年度)	100%	↑
	赤ちゃん家庭訪問率	100% (H26 年度)	97.9% (R2 年度)	100%	↓
2 安心して子どもを育てることができる環境の充実	子育て交流サロン参加者数	未実施 (H27 年度)	約 9 名/月 (R2 年度)	50 名/月	↑
	ファミリーサポートセンター利用者数	30 名/月 (H27 年度)	約 80 名/月 (R2 年度)	90 名/月	↑
3 学校教育・社会教育の強化と充実	預かり保育利用者数	未実施 (H27 年度)	25 人 (R2 年度)	20 人	↑
	放課後サポートスクール	124 人 (H27 年度)	134 人 (R1 年度) ※	150 人	↑
	サマースクール利用者数	186 人 (H27 年度)	233 人 (R1 年度) ※	240 人	↑
	ウィンタースクール利用者数	93 人 (H27 年度)	171 人 (R1 年度) ※	190 人	↑
4 地域コミュニティの充実	孫の手ボランティア数	未実施 (H27 年度)	26 人 (R1 年度) ※	30 人	↑
	紀宝町げんき塾参加者数	未実施 (H27 年度)	23 人 (R2 年度)	30 人	↑
	里親登録数	1 件 (H27 年度)	1 件 (R2 年度)	2 件	→

■基本目標２ だれもが働きやすい「紀宝」

施策	指標	従前値①	実績値②	目標値③ (R3 年度)	状況
1 働く場の創出	創業支援セミナーの開催	1 回 (H27 年度)	2 回 (R1 年度) ※	2 回	↑
	就職相談会の開催	1 回 (H27 年度)	1 回 (R1 年度) ※	2 回	→
2 商工業の振興	誘致企業（事業所）数	0 件 (H27 年度)	0 件 (R2 年度)	累計 2 件 (H28～R3 年度)	→
3 農林水産業の振興	認定農業者数	37 人 (H27 年度)	32 人 (R2 年度)	50 人	↓
	マルチ栽培生産者率	41.2% (H27 年度)	49% (R2 年度)	60%	↑

■基本目標3 だれもが暮らしやすい「紀宝」

施策	指標	従前値①	実績値②	目標値③ (R3 年度)	状況
1 生活基盤の整備	生活道路に架かる橋梁全点検数	10 橋 (H26 年度)	累計 230 橋 (R2 年度)	累計 268 橋 (2 巡目 120 橋)	↑
2 防災、安全対策の推進	町民防災会議における防災訓練、研修会等	0 回 (H27 年度)	4 回 (R2 年度)	8 回/年	↑
	交通事故発生件数	163 件 (H26 年)	131 件 (R2 年度)	146 件	↑
3 健康づくりの推進	紀宝町の介護認定率（65 歳～74 歳）	4.06% (H26 年度)	4.28% (R2 年度)	3.9%	↓
	紀宝スポーツクラブ参加者数	421 人 (H27 年度)	331 人 (R2 年度)	450 人	↓
4 高齢者、障がい者福祉の充実	地域包括支援センター総合相談人数	443 人 (H26 年度)	757 人 (R2 年度)	570 人	↑

■基本目標4 交流で賑わいあふれる「紀宝」

施策	指標	従前値①	実績値②	目標値③ (R3 年度)	状況
1 移住・定住対策の促進	インターンシップ生の受け入れ	0 人 (H27 年度)	累計 70 人 (R2 年度)	累計 108 人 (H27～R3 年度)	↑
	地域おこし協力隊の活用	0 人 (H27 年度)	累計 6 人 (R2 年度)	累計 5 人	↑
	空き家バンク登録物件数	8 件 (H27 年度)	累計 45 件 (R2 年度)	累計 49 件	↑
	空き家リノベーション利用件数	1 件 (H27 年度)	累計 4 件 (R2 年度)	累計 5 件	↑
2 交流機会の創出	農家民宿実施数	2 件 (H27 年度)	累計 2 件 (R2 年度)	累計 5 件	→
	紀宝町ふるさと応援団会員数	未設置 (H27 年度)	150 人 (R2 年度)	累計 200 人	↑
	婚活事業実施数	2 回 (H27 年度)	1 回 (R1 年度) ※	2 回/年	↓
3 観光の振興	ウミガメ公園入込客数	188,650 人 (H27 年度)	144,108 人 (R2 年度)	200,000 人	↓
	ふるさと納税額	2,200 万円 (H27 年度見込み)	3,322 万円 (R2 年度)	4,000 万円	↑
4 交通ネットワークの整備	生活道路網の整備率 (5 年間の整備計画 14.6 km)	16% (H27 年度)	90% (R2 年度)	100%	↑

(2) 第1期総合戦略の実施状況と課題

■基本目標1 安心して子どもを産み、育てられる「紀宝」

- 子育て支援センターと連携することにより、総合的な相談・支援体制を充実するとともに、安心できる子育て環境づくりに努め、出産前後の相談支援や訪問相談、妊娠を希望しながらも至らない人への支援を実施するなど、妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援体制構築を推進しました。今後も母子保健事業の充実を図り、母子の健康の保持・増進、子育て環境の整備に取り組む必要があります。また、安心して子育てができる環境づくりには、医療体制の充実が必要であり、周産期医療体制の充実に向けた検討が必要です。
- 共働きの家庭が増加する中で保育・幼児教育の充実を図り、幼稚園・保育所から小学校への接続の円滑化に向けた支援を行いました。また町内のすべての小中学校で学校運営協議会を設置し、読み聞かせや地域学習など、地域住民（人材）を教育の場で活用しました。さらに、青少年の健全な育成を目指し、青少年育成町民会議と連携し、あいさつ運動と夏の青少年非行防止パトロールを実施しました。今後、引き続き幼児教育の充実を図るとともに、地域に開かれた学校運営を推進する必要があります。
- 地域のコミュニティを充実するために、新たな担い手の発掘と育成が求められており、紀宝町げんき塾を設立し、地域課題の検討や関わり方等を考える実習を実施するなど、地域課題の解決に向けた人材の育成を行いました。また多世代交流を推進するために、各種イベントや学校行事等を活用しました。今後も、地域活動のリーダーとなる人材の発掘を継続して行い、地域の課題やまちづくりなどについて学び実践していく必要があります。

■基本目標2 だれもが働きやすい「紀宝」

- 若者の移住・定住を促進し、また勤労意欲のある高齢者や障がい者の希望が実現するよう、ハローワーク熊野及び熊野市、御浜町、地域内企業と連携し紀南地域就職面接会を実施するとともに、ビジネスに役立つ情報を提供する課題解決型図書館を充実させました。今後、広報紙において、働き方などについて周知するなど、情報発信を継続し、商工会や金融機関など関係機関と連携し就労環境の向上に努める必要があります。
- 井内工業団地を整備し企業誘致を行ってきましたが、平成26年度にすべての区画の販売が終了しました。一方、高齢化やIT化の進行に加え、新型コロナウイルス感染症の流行により厳しい状況に置かれており、きめ細かい支援を行うとともに、経営の規模拡大や経営の合理化を目的とした融資の利子に対して、補助等の支援を行い、負担の軽減と経営の安定化を図りました。今後、町内への中小企業の誘致については継続して実施するとともに、商工会と連携し、経営支援の制度の活用について広く周知を行う必要があります。
- 本町では恵まれた自然環境を活かし、水稻や柑橘類、野菜類等が生産されており、競争力を高めるために商品開発・6次産業化セミナーの開催、PR媒体作成補助等により生産者の支援を行いました。また、森林を保護するために各種補助事業等を有効に活用し森林整備や林業の普及啓発活動を実施し、林業を維持するために地元産材を使った木造住宅の建設工事に支援を行いました。当地域の漁家経営は近年、水揚げ量の減少や魚価の低迷等の影響により厳しい状況下にあり、御浜町と共同で「浜の活力再生プラン」を策定し、水産業経営の強化を図っています。今後も販路拡大、ブランド力向上を目指す必要があります。関係機関との連携強化が求められます。

■基本目標3 だれもが暮らしやすい「紀宝」

- 本町では、道整備交付金事業を活用し、町道の改良を実施するとともに、住民からの要望等により、道路の維持管理や安全対策を実施しました。また、高齢者や学生などの移動手段の確保のために町民バスの運用を改善しました。今後も、引き続き、改良が必要な町道についての整備と維持管理を進め、保育所・幼稚園・小中学校の行事などによる、町民バスの活用を図る必要があります。
- 災害に対して「自分の命は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」ということが重要であることから自主防災組織連絡協議会を開催し組織の強化に努めるとともに、地域のブロックごとに避難所運営訓練を繰り返し実施し、災害時の行動を確認し課題を整理しました。また、風水害対応の評価を踏まえ、タイムラインの見直しを図るとともに、定期的に防災訓練や防災講演会を実施し、住民の防災意識の低下を防ぐよう努めています。さらに、交通事故を減らすために関係機関と連携し、通学路や緊急性の高い危険箇所を優先して注意喚起看板及びカーブミラー設置等を実施しました。今後も自主防災組織連絡協議会の活動を継続的に実施し、訓練を行うことで組織力の向上と防災意識の低下を防ぐとともに、国、県の動向や町内の状況変化を見据え、地域防災計画やタイムラインの見直しを行う必要があります。また、中古物品の活用を増やしコストを抑制しながら、危険な場所を減らしていくことが求められます。
- 本町では、種目ごとのスポーツ団体に加え、総合型スポーツクラブが活動しており、令和2年度では17種目28団体が活動しており、会員数は331名になっています。一方、健康づくりの活動は高齢者が中心となっているため、今後は若い方や子育て世代も参加しやすい企画を考える必要があります。また、総合型スポーツクラブも会員数の減少、指導者不足の課題があり、引き続き会員の募集や指導者の確保を図っていく必要があります。
- 本町は高齢者が住み慣れた地域で最期まで暮らせる地域包括ケアシステムの構築を目指し、支援が必要と思われる方の状況を把握するため、民生委員からの情報により地域包括支援センター等が訪問し、状況把握を行い訪問し、民生委員に報告を行う体制を構築しています。障がいの種類や程度に関わらずだれもが住み慣れた地域で安心して生活できることを目指し、相談支援体制の構築を行うとともに相談支援事業者を確保し、計画相談につなげました。今後も、引き続き在宅高齢者及び障がい者への支援を充実させる必要があります。

■基本目標4 交流で賑わいあふれる「紀宝」

- 人口減少を食い止めるためには、人口の流出を食い止めることに加え、若い人の移住・定住を進める必要があります。本町では地域おこし協力隊の退任後の定住を促すため、起業を支援する補助金を創設し、また移住を検討している人に情報提供を行うため、大紀町と合同でオンラインによる移住セミナーを開催し、ふるさと回帰フェアに参加しました。今後も、地域おこし協力隊の定住・定着については、バックアップできる体制を整える必要があります。また、移住・定住の促進について、引き続き様々な方法で情報提供を行う必要があります。
- 交流機会を増大するため、農家民宿に町の観光パンフレットを設置していただき、宿泊客への観光情報を提供したほか、町ホームページで観光情報や農家民宿の紹介などの情報発信を行いました。また、外国人旅行客の利用が多い農家民宿と意見交換を行い、外国人のニーズや動向について情報収集しました。今後、近隣市町や都市部との交流をさらに推進し、移住・定住・関係人口の創出につなげるために、引き続き、関係機関と連携を強化することが必要です。
- 本町の観光の弱みは、都会から距離があることであり、近年のトレンドである体験型・滞在型ツーリズムを推進するためキャンプ場を中心として滝ダッキーやアマゴ釣り、竹ランタンづくりなどの体験メニューを実施してキャンプ場の利用促進に努めたほか、地元住民や事業者から農産物やバーベキュー食材等の委託販売を受け付け、地域の消費を増やす取り組みを行いました。また、観光情報の発信方法も多様化しており、ウミガメ公園に加え、飛雪の滝キャンプ場など町内外の交流施設も活用し、情報発信の強化に努め、町ホームページでも観光情報の発信を行いました。今後、さらなる集客や交流を促進し、合わせて地域の消費を増やすための取組が必要です。また、イベントによる一時的な交流を、地域文化の継承などにつながるよう、発展させていくことが重要です。
- 本町では、道路整備・橋梁改良や近畿自動車道紀勢線の早期全線開通に向けて、「熊野川河口に橋を架ける会」など各種団体と連携し早期完成などの要望活動を国・県等に対して行いました。また、道整備交付金事業や社会資本整備総合交付金事業を活用した町道及び林道整備、橋梁の修繕と耐震補強を実施し、アクセス強化と共に安全な道路ネットワークを構築し、安全で安心な生活環境の改善を図りました。今後、着実な事業推進のため、国・県に対し、引き続き要望を行うとともに、改良が必要な町道についての整備と維持管理を進める必要があります。

(3) 第 1 期中に生じた世界的な潮流

■新型コロナウイルス感染症の流行

- 2020 年に始まった新型コロナウイルス感染症の流行は、世界各地で変異株の出現やブレークスルー感染がみられるなど長期化しており、その影響は、健康医療、地域経済、雇用、教育、福祉、地域交通、観光、地域文化、地域コミュニティ、地方財政など、社会経済活動の様々な分野に及んでいます。
- マスクの着用、消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの確保やリモートワークの推進など、様々な感染症対策を実施する中で、長期化する流行に対応し、制約を新たな日常（ニューノーマル）として受け入れ、デジタル技術などを活用して生活や仕事のスタイルを変えていくことで、社会や経済を活性化させようとする動きがみられ、その動向を見極めつつ適応していくことが求められています。

■デジタル・トランスフォーメーション（DX）の急激な進展

- IoT、AI（人工知能）、RPA、5G 通信、ビッグデータなど、デジタル技術の革新が急速に進展しています。これらの技術は社会を効率化するだけでなく、高齢化や人口減少等による社会的課題の解決に資することが期待され、国はデジタル技術を普及させることで Society5.0（超スマート社会）の実現を目指しています。
- 国は、デジタル社会の形成に資する行政事務の迅速かつ重点的な遂行を図るため、新たに「デジタル庁」を設置しました。地方自治体にはDXによる業務の効率化やサービスの向上等が期待されることから、自治体DX推進計画等を進めていくこととしており、加速度的に進行するデジタル変革への的確な対応が求められています。
- 個人情報の管理面等における ICT リテラシーの向上やサイバーテロ等に対するセキュリティの強化、高齢者やデジタル環境を利用できない人へのデジタルデバйд対応が求められています。

■SDGs への世界的な取り組み

- 気候変動やさまざまな分断が国際社会で問題になる中、持続可能な開発目標（SDGs）への関心が高まっています。普遍性・包摂性・参加性・統合性・透明性を基本とする、多様性を踏まえた包容力のある社会的なつながりの必要性や、コロナ禍で都市の持続可能性が一層重要視される中で、企業評価でも ESG 投資（環境、社会、企業統治への投資）が指標の一つとされるなど、SDGs への貢献が求められています。
- 持続可能な開発目標（SDGs）では、2030 年に向けた 17 の国際目標とその下に 169 のターゲットが決められており、地球上の誰一人取り残さないことを目指し取り組みが進められています。
- 地方自治体において、高齢化と人口減少が進行する中で包摂性のある持続可能なまちづくりが必要であるという観点から、国際目標の達成に向けた各自治体レベルの取り組みが求められています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



(左) SDGs のロゴマークと 17 分野のアイコン

(下) SDGs の 17 のゴール



ゴール 1 「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」



ゴール 2 「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」



ゴール 3 「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し福祉を促進する」



ゴール 4 「すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を推進する」



ゴール 5 「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女子の能力強化を行う」



ゴール 6 「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」



ゴール 7 「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代のエネルギーへのアクセスを確保する」



ゴール 8 「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と適切な雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」



ゴール 9 「強靭なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの拡大を図る」



ゴール 10 「各国内及び各国間の不平等を是正する」



ゴール 11 「包摂的で安全かつ強靭で持続可能な都市及び人間居住を実現する」



ゴール 12 「持続可能な生産消費形態を確保する」



ゴール 13 「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」



ゴール 14 「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」



ゴール 15 「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」



ゴール 16 「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」



ゴール 17 「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」

2 第2期総合戦略の概要

(1) 基本的な考え方と位置付け

「第2期紀宝町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「第1期紀宝町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の施策を継続しつつ、さらに強化させることにより「紀宝町人口ビジョン」で示した将来人口を維持するために、「国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「三重県の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、2022年度（令和4年度）から今後5か年で取り組む施策の基本方向、重点的に取り組む施策や目標値等を示すものです。

(2) 計画期間

「紀宝町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、国や県の総合戦略に掲げられた基本目標を踏まえ、紀宝町の現状・将来像を見極めつつ設定した「基本目標」、「施策の基本方向と成果指標（アウトカム指標）」、施策や事業ごとの進捗状況を検証するための「重要業績評価指標（KPI）」から構成されています。

また、対象期間は2022年度（令和4年度）から2026年度（令和8年度）の5か年とします。

なお、地方創生を確実にかつ着実に実現するため、随時見直しを行うこととしています。

(3) 戦略推進の5原則

国では人口減少と地域経済縮小を克服し地方創生を実現するため、5つの政策原則（「自立性」、「将来性」、「地域性」、「直接性」、「結果重視」）に基づき施策を展開することとしています。

紀宝町においても、これら5原則を踏まえ以下の視点で各施策を展開することとします。

自 立 性	構造的な問題に対処し、地域、民間事業者、個人等の自立につなげます。
将 来 性	各主体が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援します。
地 域 性	各地域の実態に合った施策を支援します。
直 接 性	最大限の成果をあげるため、人口減少対策、地方創生施策を集中的に実施します。
結 果 重 視	PDCA サイクルを導入し、具体的な数値目標を設定して、効果検証と改善を実施します。

(4) 推進・検証のしくみ

基本目標別に実施した施策が、町民にどのような成果が届けられたのかが分かる成果指標（アウトカム指標）を掲げるとともに、具体的施策においても重要業績評価指標（KPI）を複数設定することにより、効果を検証し、早期に改善を図る仕組み（PDCA サイクル）を構築します。

重要業績評価指標（KPI）の設定にあたっては、各施策を重点的に実施した効果が客観的に検証できるような指標の設定に努めました。

各施策の推進や効果の検証は、「紀宝町まち・ひと・しごと創生会議」において定期的に行います。

3 基本目標

(1) 基本目標の考え方

本総合戦略は、「紀宝町人口ビジョン」で示した「目指すべき人口の将来展望（2060年に約6,300人の人口を維持する）」の達成を目的に、2026年度（令和8年度）までに取り組むための基本目標を定めるものです。

基本目標は、国や県が定めた基本目標を踏まえ、紀宝町のこれまでの取組や現状・課題等を踏まえ設定しました。また、主な施策については持続可能な開発目標（SDGs）の17のゴールのうち、各施策に該当するゴールをアイコンで示しました。

(2) 基本目標

「紀宝町人口ビジョン」において掲げた「数値目標」を実現するため、以下の4つの基本目標を掲げます。

国のまち・ひと・しごと創生総合戦略

基本目標 1

稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする

基本目標 2

地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる

基本目標 3

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基本目標 4

ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

三重県のまち・ひと・しごと創生総合戦略

基本目標 1

活力ある働く場づくり

基本目標 2

未来を拓くひとづくり

基本目標 3

希望がかなう少子化対策

基本目標 4

魅力あふれる地域づくり

紀宝町総合戦略に掲げる「基本目標」

基本目標 1 安心して子どもを産み、育てられる「紀宝」

基本目標 2 だれもが働きやすい「紀宝」

基本目標 3 だれもが暮らしやすい「紀宝」

基本目標 4 交流で賑わいあふれる「紀宝」

(1) 総合戦略の全体骨子

紀宝町まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本目標

1

安心して子どもを産み、育てられる「紀宝」

主な施策

1. 安心して子どもを産むことができる環境の充実
2. 安心して子どもを育てることができる環境の充実
3. 学校教育・社会教育の強化と充実
4. 地域コミュニティの充実

基本目標

2

だれもが働きやすい「紀宝」

主な施策

1. 働く場の創出
2. 商工業の振興
3. 農林水産業の振興

基本目標

3

だれもが暮らしやすい「紀宝」

主な施策

1. 生活基盤の整備
2. 防災、安全対策の推進
3. 健康づくりの推進
4. 高齢者、障がい者福祉の充実

基本目標

4

交流で賑わいあふれる「紀宝」

主な施策

1. 移住・定住対策の促進
2. 交流機会の創出
3. 観光の振興
4. 交通ネットワークの整備

(2) 基本目標別の具体的施策

基本目標

1

安心して子どもを
産み、育てられる「紀宝」



施策の基本方向と成果指標（アウトカム指標）

次世代を担う子どもたちは、まちの「宝」です。紀宝町の豊かな自然環境の中で、安心して子どもを産み、育てることのできる環境を整備し、若い世代から「紀宝町で子どもを産み、育てたい」、「紀宝町に住みたい」と思ってもらえるようなまちづくりを進めます。

また、紀宝町の合計特殊出生率は、全国と比較しても高水準となっているものの、人口動態としては「自然減」の状況になっていることから、合計特殊出生率の向上を図ります。

施策の
基本方向

妊娠前、妊娠期、出産前後、子育て期までを通じて切れ目のないサービスを提供し、若い世代が安心して子どもを産み、育てられる環境づくりに取り組むことで、子育てを応援していきます。

成果指標（アウトカム指標）	現況値（令和2年度）	数値目標（令和8年度）
合計特殊出生率	1.74（H27～R1年度平均）	1.9以上（R4～R8年度平均）

主な施策の概要と重要業績評価指標（KPI）

1. 安心して子どもを産むことができる環境の充実



- コロナ禍においても、安心して出産、育児ができる環境を整備するため、家庭訪問の実施や相談体制の充実に努めます。また、生後2週間目全戸電話相談等を行うことにより、さらなる相談体制の充実に努めます。
- コロナ禍における出産前後の悩みを解消するため、助産師の協力のもと「子育てほっとサロン」の開催や保健指導の充実に図り、妊娠、出産後のご家庭をサポートする体制の強化に努めます。
- 不妊、不育症に悩む夫婦の経済的負担を支援するとともに、関係機関と連携し、管内県立高校を対象とした「思春期教育」を実施し、ライフプラン教育を推進します。
- 胎児の健康につながる妊婦の口腔内の健康を保持するため、歯科健診の受診を推進します。
- 周産期医療体制の充実に図ることを目的に、基幹病院である紀南病院の産科外来・入院体制について、構成市町と連携して支援していきます。

成果指標（アウトカム指標）	現況値（令和2年度）	数値目標（令和8年度）
妊婦家庭訪問率	84.4%	100%
赤ちゃん家庭訪問率	97.9%	100%

2. 安心して子どもを育てることができる環境の充実



- 「子育て世代包括支援センター」の設置により、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援に努め、各家庭に応じた支援プランを作成し、きめ細やかな子育てサポートの体制を図ります。
- 年6回「子育てほっとサロン」として、妊娠期から子育て期の母子を対象に、助産師の協力を得ながら妊娠、出産、子育てについて気軽に話し合える場を提供し、安心して子育てができる環境を整備していきます。
- 生涯において健康な口腔内を保つため、町内全小中学生を対象に、フッ化物歯面塗布を推進します。
- 若年期から歯と口の健康が、将来の全身の健康につながるため、中学校卒業以降から39歳までの男女に予防的な歯科受診を推進します。
- 昼間に母親と乳児だけになってしまう核家族家庭を支援するため、支援が必要な世帯に対して子育てヘルパーを派遣し、子育て環境の向上を図ります。
- 多子世帯、一人親世帯など支援が必要な世帯を支援するため、ファミリーサポートセンター利用料の助成などを行い、子育て世帯の経済的負担の軽減に努めます。
- 子育て世帯を応援するため、助成金制度の創設など経済的負担軽減策を検討します。
- 子育て環境の向上を図るため、平成31年4月より開始した、土曜延長保育を今後も継続します。

重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和２年度）	数値目標（令和８年度）
子育て交流サロン参加者数	約 34 名／年	50 名／年
赤ちゃん家庭訪問率	約 80 名／月（延べ 1,093 名）	95 名／月

3. 学校教育・社会教育の強化と充実



- 子育てを支援するため、うどの幼稚園において、夏休み、冬休み等、長期休業中の預かり保育を実施します。
- 学習に対する意欲の喚起と子ども達の学力の向上を図るため、放課後や夏季・冬季休業中に町教育委員会が学習の場を設定（放課後サポートスクール、サマースクール、ウィンタースクール）し、自主学習の支援を行います。
- 町内全ての小中学校に設置済みの「学校運営協議会」において、保護者や地域と連携したさまざまな教育活動を、各学校の実情にあわせて推進します。
- タブレットやパソコンなどの情報機器を効果的に活用し、効率的で効果的な情報教育の実現を目指します。
- 経済的理由により就学が困難な高校生に対し、町の奨学金制度により就学費用の一部を支給します。
- 児童虐待の防止を図るため、民生委員等を児童虐待防止の協力員として養成し、児童虐待の早期発見、早期対応に努めます。
- 青少年の健全育成を図るため、地域社会全体であいさつ運動やパトロール活動の取組みを進めるとともに、青少年が主体となったイベントの企画運営を図ることにより、自主性・社会性が育まれる環境づくりに努めます。

重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和２年度）	数値目標（令和８年度）
預かり保育利用者数	25 人	25 人
放課後サポートスクール参加登録者数	92 人	150 人
サマースクール利用者数	0 人 （新型コロナの影響により未実施）	240 人
ウィンタースクール	0 人 （新型コロナの影響により未実施）	190 人

4. 地域コミュニティの充実



- 地域活動のリーダーや担い手の発掘・育成に努めるとともに、担い手間のネットワークを構築するため「紀宝町げんき塾」の活動を支援します。
- 地域コミュニティの充実を図るため、子どもから高齢者までの幅広い世代が集い、活動できる環境の構築を図ります。
- 多世代交流を推進するため、放課後児童の安心できる居場所、地域の高齢者から児童までの多世代が交流することのできる場を整備し、地域の連帯感の醸成、一体化を目指します。
- 日常の些細な生活ニーズがある貧困、子育て世代、障がい者、高齢者等を支援するため、日常生活をサポートする子ども（孫の手）ボランティアを育成し、貧困、子育て世代、障がい者、高齢者等の生活ニーズに応じた支援の提供と世代間交流を図り、地域支え合い体制の構築を促します。
- 里親制度について町民の理解を深めるため、広報等で周知を行い、里親への新規登録を促進するなど、里親を必要とする子どもの受け入れを進めるなど社会的擁護の推進に努めます。

重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和2年度）	数値目標（令和8年度）
孫の手ボランティア数	0人	30人
紀宝町げんき塾参加者数	23人	30人
里親登録数	1件	2件



だれもが働きやすい「紀宝」



施策の基本方向と成果指標（アウトカム指標）

安定した雇用の創出は、地域における人口と活力を持続させる基礎となるものです。

起業や新技術、新たな特産品の開発等について産学官等が連携することにより、今までにない新たな発想で産業分野を切り開いていくことが求められます。

施策の
基本方向

商工業や農林水産業の振興を図るとともに、商工会や金融機関、ハローワーク、他市町等と連携し、創業支援や就業に関する相談・支援の機会を充実させることで、だれもが働きやすい環境づくりを推進します。

成果指標（アウトカム指標）	現況値（令和2年度）	数値目標（令和8年度）
生産年齢人口※に占める就業者の割合	71%（H27年国勢調査の実績値）	73%

※年齢別人口のうち労働力の中核をなす15歳以上65歳未満の人口層

主な施策の概要と重要業績評価指標（KPI）

1. 働く場の創出



- 若者の地元就職を支援するため、ハローワークや県・学校・地元企業などの関係機関との連携を強化し、雇用情報の発信、就職に関する相談会の開催に努めます。
- 働く場を創出するため、ビジネスに役立つ情報を提供する「課題解決型図書館サービス」の充実・強化に努めます。
- 事業経営の円滑な継続を支援するため、商工会や金融機関などの関係機関と連携し、セミナーの開催や相談会の開催など、相談・支援体制の充実に努めます。
- 就労環境の向上を図るため、関係機関と連携し、ワーク・ライフ・バランスの取組みを促進します。
- 高齢者や女性、障がい者を含め、全ての者が安定して就労できるよう町内企業に対し働きかけを行い、就労環境の向上に努めます。
- 副業・兼業といった多様な働き方、テレワークなどウィズコロナの中での新しい働き方に向けた環境整備に努めます。

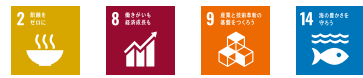
重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和2年度）	数値目標（令和8年度）
就職相談会の開催	0回 (新型コロナウイルスの影響により未実施)	2回
創業支援セミナーの開催	0回 (新型コロナウイルスの影響により未実施)	2回

2. 商工業の振興



- 企業誘致を積極的に進めるため、税制面等の優遇措置の導入などを検討します。
- 地域産業の振興を図るため、商工会や地元企業、金融機関等と協力して、創業支援や商品開発を行うなど地域の特色を活かした産業振興を展開します。
- 商工会、金融機関等と連携して、経営相談や低利融資などの紹介を行うことにより、経営の安定化を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和2年度）	数値目標（令和8年度）
新規創業件数	累計 18 件（H27 ～ R2 年度）	累計 26 件（H27 ～ R8 年度）



3. 農林水産業の振興

- 恵まれた自然環境を活かして、農林水産業の振興を図るとともに、担い手の育成に努めます。
- 新たな地域商品を開発するため、産学官の連携等により、地元特産品のブランディング化に努めます。
- 農産物の高付加価値化を図るため、特産品の6次産業化や経営の高度化を促進するとともに、人材の育成など一体的に進めます。
- 農産物の販路拡大を図るため、PR媒体の作成、商品開発、農産物の高品質化等に対する支援を行います。
- 森林の適正管理を図るとともに、優良材の生産に向けて、森林組合等を中心に関係機関と連携し、林道整備等を推進します。
- 地元産材の利用促進を図るため、建築業者等と連携に努めます。
- 限られた資源に付加価値をつけ、魚価を向上させるため、安全・安心で高品質な水産物を供給する施設整備を検討します。

重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和2年度）	数値目標（令和8年度）
認定農業者率	14%	20%
マルチ栽培生産者率	49%	60%



だれもが暮らしやすい「紀宝」



施策の基本方向と成果指標（アウトカム指標）

地域の活力を維持していくためには、時代を的確に捉えた魅力ある施策展開はもとより、住民が生涯を通じて安全で安心して住み続けられることが重要です。

施策の
基本方向

生活基盤の整備及び防災、安全対策を推進し、住民の安全・安心を支えるとともに、健康づくり、高齢者、障がい者福祉を充実させ、だれもが暮らしやすい紀宝町を目指します。

成果指標（アウトカム指標）	現況値（令和2年度）	数値目標（令和8年度）
人口移動における社会増減	△76人	△60人
住民アンケート調査で「紀宝町で住み続けたい」と答えた人の割合（％）	70.7%	73.7%

主な施策の概要と重要業績評価指標（KPI）

1. 生活基盤の整備



- 町道等インフラの長寿命化を図るため、施設を定期的に点検し、破損個所の早期発見・早期補修に努めます。
- 子どもから高齢者までが安全で快適に暮らすことができる生活基盤の整備を図るため、関係機関と連携して、鉄道や路線バス、町民バス等公共交通機関の利便性の向上を図るとともに、公園、広場の適切な維持管理に努めます。
- 紀宝町の豊かな自然環境を後世に残すため、事業者に対し環境に配慮した自然エネルギーの活用となるように啓発に努めます。
- 行政手続きの利便性向上を図るため、各種手続きを見直し、オンライン申請を拡充していきます。
- マイナンバーカードの普及を促進し、窓口業務の効率化を図り、利便性の高い住民サービスの提供に努めます。

重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和2年度）	数値目標（令和8年度）
生活道路に架かる橋梁修繕率 （5か年の修繕計画10橋）	0%	100%



2. 防災、安全対策の推進

- 地域住民、行政、関係機関等が連携し、町民各々が「自分の命は自分で守る」という防災意識の醸成を図ることを目的として「町民防災会議」を設置し、町全体で「人の命が一番」を基本にした防災・減災対策に取り組みます。
- 大地震等災害から子どもたちの安全を守るため、生きる力をはぐくむ防災教育を推進するとともに、保護者、地域が連携し実態に応じた防災対策を推進します。
- 災害に強いまち・ひとづくりを推進するため、防災教育、防災研修を進めるとともに、防災情報システムの多重化、避難路・避難場所の整備に努めます。
- 避難所での新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、コロナ禍における避難所運営の体制づくりを進めます。
- 防災拠点を整備するため、平常時には住民が気軽に集い、憩える場となり、災害発生時には一次避難場所や仮設住宅用地として、また、救護および復旧活動の拠点として活用出来る防災公園等の整備を図ります。
- 地震による家屋倒壊や家具の転倒による負傷を防止し、家屋内での避難経路を確保するため、町内住宅の耐震化、家具固定を推進します。
- 交通安全意識の高揚を図るため、子どもから高齢者までを対象とした交通安全指導や啓発を行うとともに、警察等関係機関と連携し、通学路等を中心に、カーブミラー等の交通安全施設の整備を進めます。
- 景観の保全や町民の安全・安心の確保、並びに災害の未然防止を図るため、老朽化により周辺に危険を及ぼす恐れのある空き家の解体を促進します。

重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和２年度）	数値目標（令和８年度）
町民防災会議における防災訓練、研修会等の実施数	４回／年	８回／年
交通事故発生件数増減率※	△５.１％	△１０.０％

※（当年の交通事故発生件数 ÷ 前年の交通事故発生件数 × 100）－ 100

３．健康づくりの推進



- コロナ禍で家に引きこもりがちな町民の健康づくりを推進するため、運動習慣の確立や栄養改善、口腔の健康、禁煙、フレイル対策など、乳幼児期から高齢期までのライフステージに応じた健康づくりの推進を図り、健康寿命の延伸に努めます。
- 紀宝町のスポーツ振興に寄与するため、各種スポーツ大会において優秀な成績を収め、県大会等に参加する場合の経費の一部を補助します。
- 町民の健康づくりを進めるため、町民の体力・運動能力のデータを体育・スポーツ指導、行政基礎資料として活用するとともに、紀宝スポーツクラブの運営を通じて、地域住民の健康づくり、青少年の健全育成に努めます。

重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和２年度）	数値目標（令和８年度）
紀宝町の介護認定率（65 歳～ 74 歳）	4.28％	3.9％
紀宝スポーツクラブ会員数	328 人	450 人

４．高齢者、障がい者福祉の充実



- 支援を要する高齢者の早期発見、早期支援などの見守りネットワークを推進し、地域住民、関係機関、介護保険・保健福祉サービス等と協調した地域包括ケアシステムの構築を図ります。
- 障がい児（者）のリハビリテーションや生活支援、介護予防等を行うため、保健師や作業療法士などの専門職の配置を強化します。
- 高齢者や障がい児（者）等に対する総合的な相談窓口の設置に向けた重層的支援事業への取り組み体制を構築します。

重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和２年度）	数値目標（令和８年度）
地域包括支援センター総合相談実人数	757 人	850 人

交流で賑わいあふれる「紀宝」



施策の基本方向と成果指標（アウトカム指標）

紀宝町の豊かな自然、「紀伊半島の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されている七里御浜海岸、熊野川、御船島等の歴史的・世界的価値を持つ資源を十分に活用した観光の振興・交流機会の増大を目指します。

施策の
基本方向

紀宝町の魅力を地域内外に広くPRして、交流機会の増大を図るとともに、紀宝町への移住を促進します。恵まれた自然環境を活かした集客交流を推進します。

成果指標（アウトカム指標）	現況値（令和2年度）	数値目標（令和8年度）
移住者数（※企画調整課調べ）	累計126人（H27～R2年度）	累計260人（H27～R8年度）
観光入り込み客数	183,888人	260,000人
住宅新築件数	29件	45件

主な施策の概要と重要業績評価指標（KPI）



1. 移住・定住対策の促進

- U I J ターンを推進するため、移住・定住に向けた支援を行うとともに、県内外の学生をインターンシップ生として受け入れ、地場産業（農林水産業等）への従事を通じて、紀宝町の魅力、暮らしを実感してもらう仕組みを創出します。
- 地域外の人材を積極的に受け入れ、町内への定着、定住を図るため、地域おこし協力隊等の制度を積極的に活用します。
- 移住等を推進するため、県と関係市町が一体となり、都市部での P R 活動や、受け入れ体制のレベルアップを図ります。
- 定住を促進するため、町有地や空き地を有効に活用するとともに、空き家バンクの充実を図ります。また、町外の方が町内の空き家などを改修して移住する場合、費用の一部を助成します。
- 移住等を考えている方などに対し、一定期間紀宝町に住んでもらい、定住に向け紀宝町を体感していただくために、「お試し住宅制度」を実施します。
- 若者の定住を促進するため、40歳未満の若者が町内に住宅を新築した場合、固定資産税の減額や町営浄化槽設置分担金補助などを行い、負担の軽減に努めます。
- 公共事業により、立ち退きされた方の定住を促進するため、町内に住宅を新築、または取得した場合、固定資産税の減額などを行い、負担の軽減に努めます。
- 新しい生活様式を考慮した方法で地域の情報発信等を実施し、移住対策を促進します。

成果指標（アウトカム指標）	現況値（令和2年度）	数値目標（令和8年度）
インターンシップ生の受け入れ	累計 70 人（H27 ～ R2 年度）	累計 108 人（H27 ～ R8 年度）
地域おこし協力隊の活用	累計 6 人	累計 8 人
空き家バンク登録物件数	累計 45 件	累計 70 件
空き家リノベーション利用件数	累計 4 件	累計 6 件

2. 交流機会の創出



- 交流機会の創出・増大を図るため、農家民宿を活用した紀宝町の魅力を体感できる仕組みを検討するとともに、インターネットを積極的に活用し、町の魅力を発信します。
- 紀宝町出身者や紀宝町を愛する人で組織する「紀宝町ふるさと応援団」により、町の情報を届け、会員相互の情報共有の場を設け、産業や交流の拡大を図ります。
- 若者の出会いを支援するため、婚活事業の充実に努めます。
- 新しい生活様式を考慮した方法により、交流機会の創出に努めます。

重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和2年度）	数値目標（令和8年度）
農家民宿実施数	累計2件	累計5件
紀宝町ふるさと応援団会員数	累計150人	累計200人
婚活事業実施回数	0回／年 (新型コロナの影響により未実施)	2回／年

3. 観光の振興



- 紀宝町の特産品の販路拡大、観光PRを図るため、紀宝町ふるさと納税制度を活用するとともに、特設サイトの開設やSNS、スマホアプリなどICTを活用した情報発信に努めます。
- 年間18万人が訪れるウミガメ公園の総合的な機能を強化し、より安全で安心して利用していただけるよう、防災面や情報面、また来客者の利便性の向上を図ります。
- 世界遺産熊野古道をはじめとした観光資源や、温暖な気候を活かした特産品など、共通の資源を有する他市町と広域的に連携し、PRや受け入れ体制の整備を推進します。
- 「外国人にやさしいまちづくり」を進めるため、関係機関と連携し、多言語版パンフレット等の作成や案内看板等の設置を推進します。
- 文化財を観光振興や生涯学習等に活用するため、新たに町指定文化財に指定した京城跡を含め、町の恵まれた自然環境、歴史的・文化的遺産等の情報発信を進めます。
- 休耕田などを活用し、景観作物の栽培を促進するなど、「花いっぱい運動」を推進します。
- 集客交流拠点の整備に向け、豊かな自然環境や豊かな農林水産資源を活用した、自然活用型の体験事業や農村生活が体験できる集客交流施設のあり方について検討します。
- 紀宝町の自然環境を活かした環境学習拠点として、関係機関と連携し、田代公園やウミガメ公園、熊野川、相野谷川等の活用を検討するとともに、ガイド等の人材育成、受入れシステムの構築を図ります。
- 地域外からの集客を図るため、紀宝町の海・山・川の自然環境等を活かしたアウトドア拠点のあり方について検討します。
- ウィズコロナ・アフターコロナの新しい時代における社会・価値観の変化を予測し、各種対策を講じながら、選ばれる観光地づくりを推進します。

重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和２年度）	数値目標（令和８年度）
ウミガメ公園入込客数	144,108 人	200,000 人
ふるさと納税額	3,322.2 万円	6,500 万円

4. 交通ネットワークの整備



- 高速交通体系の確立に向け、一般国道４２号「新宮紀宝道路」、「紀宝熊野道路」の建設を促進し、ミッシングリンクの解消などを関係機関に積極的に働きかけるとともに、沿道への集客施設などの整備について検討します。
- 地域内交流、産業の活性化に資するため、広域幹線道路と町内を結ぶ生活道路網の整備を計画的に進めます。

重要業績評価指標（KPI）	現況値（令和２年度）	数値目標（令和８年度）
生活道路の整備率 （５か年の整備計画 1.0km）	0%	100%





第2期紀宝町 まち・ひと・しごと創生 総合戦略

発行	紀宝町
編集	紀宝町役場企画調整課
	〒519-5701
	三重県南牟婁郡紀宝町鵜殿324番地
	TEL 0735-33-0334
	URL https://www.town.kiho.lg.jp